

科目名	演劇学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
受講者による演劇作品(ミュージカル・オペラを含む)の研究発表と質疑応答をおこなう。					
授業概要					
対面授業 受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。					
受講上の注意					
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		

14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	演劇学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
受講者による演劇作品の研究発表と質疑応答をおこなう。					
授業概要					
対面授業 受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。					
受講上の注意					
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		

14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	演劇学特論		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	講義		
教員名	出口 逸平					
クラス名						
授業目的と到達目標						
オペラから映画まで、「身体と言葉」の芸術である演劇を幅広くとらえ、その特徴を丁寧に探りたい。						
授業概要						
対面授業 受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時 DVD(演劇・映画等)を利用する。						
受講上の注意						
受講者それぞれが、まずは自分の興味のあるかをよく探してほしい。 相談や質問には、丁寧に答えていく。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1	各人のテーマに応じて随時紹介する。					
出版社名		著者名				

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の進め方、発表日程や作品についての相談		
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		

15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	演劇学特論		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	講義		
教員名	出口 逸平					
クラス名						
授業目的と到達目標						
オペラから映画まで、「身体と言葉」の芸術である演劇を幅広くとらえ、その特徴を丁寧に探りたい。						
授業概要						
対面授業 受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時 DVD(演劇・映画等)を利用する。						
受講上の注意						
受講者それぞれが、まずは自分の興味のあるかをよく探してほしい。 相談や質問には、丁寧に答えていく。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	各人のテーマに応じて随時紹介する。					
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の進め方、発表日程や作品についての相談		
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		

15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	音楽学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					
授業目的と到達目標					
先行研究の研究に留まるのではなく、根拠のしっかりしていない自分の考えに走るのでもなく、読書に裏付けられた思考を展開し、それを学位論文につなげられるよう、共に考えるという姿勢で指導を行なう。					
授業概要					
対面授業 受講者の研究発表を中心とし、それをめぐる討論を研究の発展につなげる。また、先人の思考を自らの思考とできるような文献研究を行なう。					
受講上の注意					
十分な準備をして研究発表をすることが重要である。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常成績(研究発表および討論への参加)			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業時に適宜紹介する。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	研究発表と討論、必要に応じて文献講読。		

科目名	絵画特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	西田 真人				
クラス名					
授業目的と到達目標					
【前期】模写(手本は東洋の古典に限らず、世界の近・現代の絵画も含める)を通じて、各自で色や線、造形や絵画空間、様々な表現技法を探り鑑賞力、表現力を養う。					
授業概要					
【前期】前半では共通課題「林潤一・寒牡丹(F10 号)」を模写。その間後半の各自模写手本を決定。5 回で各自の関心に応じて一点の模写制作。					
受講上の注意					
【前期】最初の共通課題で使用する日本画絵の具類は研究室で用意しますが、その後の課題は日本画以外の専攻学生は各自負担になります。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
【前期・後期】課題作品及び総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	【前期】制作プロセスのカラー資料 20 枚は研究室で用意します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	【前期】人気作家に学ぶ日本画の技法⑤花を描く 1994 年同朋舎出版				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
絵画特殊研究Ⅰの前期・後期は、それぞれ授業内容・担当教員が異なり、それぞれ前期・後期で完結している。 評価基準等も異なるので注意。			
教員実務経験			
【前期】西田真人 日本画家(公益社団法人日展特別会員)、2008年から2017年京都市立芸術大学日本画研究室教授			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期] 1.【対面】前期授業内容のガイダンス 2.【対面】林潤一・寒牡丹(10号) 下絵のトレース、骨描き 3.【対面】 " 下地制作 4.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 5.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 次の課題についての指導 6.【対面】 " 彩色 適宜個別指導 " 7.【対面】 " 彩色 適		

科目名	絵画特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	森井 宏青				
クラス名					
授業目的と到達目標					
授業目的: 私達が無自覚のうちに飲まれゆく、世界のアートや価値観の均質化。その問題とマテリアルはどう関わるのか。 表現により自己確立するうえで、知らねばならない様々な古典技法やマテリアル。基礎知識の習得と演習。 達成目標: 広くアートを構成しうる材料に興味を持ち、自己表現との深い関わりを見出し築くことにより、アイデンティティを獲得する。					
授業概要					
対面授業 「画材とは何か、自己の表現とどうつながるか」を中心とした専門理論の講義。または実際にそれらを活用しての演習。					
受講上の注意					
アートを構成する、まさに「基底材」となりうる知識の習得が主旨である。なるべく難しい言葉を使わず、興味持てる内容になるよう授業構成されているが、ノートを取らない、居眠りや欠席が多いなど、勤勉さに欠ける学生には受講を認めない。 また、各自で収集、作成するなど、自ら行動する積極性が求められる。 大学院生に恥じない、自覚ある受講態度で臨むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合 (%)		
授業態度、姿勢、質疑応答や、演習の結果による総合判定。 理論、知識が豊かに、正確に習得されているか、それらが演習としてのびやかに創作に生かされているか			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
画家 ノルウェー・フィンランド、北欧アーティストコミュニティ・キュレーター。 アートマテリアル研究家 油彩画修復師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	講義 1: 各学生のアトリエ訪問から、表現とマテリアルの関わりについて検証する		
2	講義 2: 表現による自己確立とグローバリズム		
3	講義 3: 支持体とは		
4	講義 4: 有機顔料と無機顔料		
5	講義 5: 白の考察		
6	演習 1: 独自の支持体を見出すために。油彩画のための理想的支持層とは		

7	演習 2: 油彩支持体制作①
8	演習 3: 油彩支持体制作②
9	演習 4: 油彩支持体制作③
10	演習 5 独自の支持体を作成する①
11	演習 6 独自の支持体を作成する②
12	演習 7 独自の支持体を作成する③
13	演習 8 独自の支持体を作成する④
14	演習 9 独自の支持体を作成する⑤
15	フリーディスカッション

科目名	絵画特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	森井 宏青				
クラス名					

授業目的と到達目標

授業目的: 私達が無自覚のうちに飲まれゆく、世界のアートや価値観の均質化。その問題とマテリアルはどう関わるのか。| 表現により自己確立するうえで、知らねばならない様々な古典技法やマテリアル。基礎知識の習得と演習。|| 達成目標: 広くアートを構成しうる材料に興味を持ち、自己表現との深い関わりを見出し築くことにより、アイデンティティを獲得する。

授業概要

対面授業| 「画材とは何か、自己の表現とどうつながるか」を中心とした専門理論の講義。または実際にそれらを活用しての演習。

受講上の注意

アートを構成する、まさに「基底材」となりうる知識の習得が主旨である。なるべく難しい言葉を使わず、興味持てる内容になるよう授業構成されているが、ノートを取らない、居眠りや欠席が多いなど、勤勉さに欠ける学生には受講を認めない。| また、各自で収集、作成するなど、自ら行動する積極性が求められる。| 大学院生に恥じない、自覚ある受講態度で臨むこと。

成績評価方法・基準

種別	割合 (%)
授業態度、姿勢、質疑応答や、演習の結果による総合判定。 理論、知識が豊かに、正確に習得されているか、それらが演習としてのびやかに創作に生かされているか	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
画家 ノルウェー・フィンランド、北欧アーティストコミュニティ・キュレーター。 アートマテリアル研究家 油彩画修復師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	講義 1: 各学生のアトリエ訪問から、表現とマテリアルの関わりについて検証する		
2	講義 2: 表現による自己確立とグローバリズム		
3	講義 3: 支持体とは		
4	講義 4: 有機顔料と無機顔料		
5	講義 5: 白の考察		
6	演習 1: 独自の支持体を見出すために。油彩画のための理想的支持層とは		

7	演習 2: 油彩支持体制作①
8	演習 3: 油彩支持体制作②
9	演習 4: 油彩支持体制作③
10	演習 5 独自の支持体を作成する①
11	演習 6 独自の支持体を作成する②
12	演習 7 独自の支持体を作成する③
13	演習 8 独自の支持体を作成する④
14	演習 9 独自の支持体を作成する⑤
15	フリーディスカッション

科目名	絵画特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

版画の歴史と版による表現の特色を、作家研究と版画制作等の演習を通して学ぶこと。|様々な版種における版構造、および表現の特色の違いを理解する。

授業概要

対面授業。|現代版画の源は 20 世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。|この授業では、版を表現手段にしてきた作家の研究と様々な版画の制作を通して、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。

受講上の注意

準備学修として、好きな版画家とその作品について資料を集めておく。|下絵が必要な版画制作の場合は予め準備する。|スケッチブック、刷る紙等は原則持参のこと。銅板は実費が必要。|安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題提出作品・レポート	80
制作・相互鑑賞への姿勢、授業態度、授業への貢献度	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画作家としての経験を活かし、シルクスクリーン・銅版画等の表現技法を習得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要説明と4版種の説明		
2	モノタイプ制作 1		
3	モノタイプ制作 2		
4	ディビッド・スミス「芸術を学ぶ者への問い」について		
5	シルクスクリーン制作―版下作成		
6	シルクスクリーン制作―製版		
7	シルクスクリーン制作―印刷		
8	シルクスクリーン制作―印刷・解版		
9	モノタイプ作品・シルクスクリーン作品鑑賞, 合評		
10	作家研究資料収集、発表資料準備		

11	作家研究—版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 1
12	作家研究—版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 2
13	作家研究—版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 3
14	本学収蔵版画作品(浮世絵等)鑑賞
15	エンボス作品制作
16	銅版画試作—銅版準備、防食材塗布
17	銅版画試作—間接法(描画・腐食)
18	銅版画試作—間接法(アクアチント・スピットバイト・腐食)
19	銅版画試作—印刷
20	銅版画制作—防食材塗布、版下転写
21	銅版画制作—描画
22	銅版画制作—腐食
23	銅版画制作—描画と腐食
24	銅版画制作—試刷1
25	銅版画制作—加筆と腐食
26	銅版画制作—加筆と腐食
27	銅版画制作—試刷2, 修正
28	銅版画制作—本刷
29	銅版画作品鑑賞・合評1
30	銅版画作品鑑賞・合評2, 授業の振り返りとまとめ

科目名	絵画特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

版画の歴史と版による表現の特色を、作家研究と版画制作等の演習を通して学ぶこと。|様々な版種における版構造、および表現の特色の違いを理解する。|

授業概要

対面授業。|現代版画の源は 20 世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。|この授業では、版を表現手段にしてきた作家の研究と様々な版画の制作を通して、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。|

受講上の注意

準備学修として、好きな版画家とその作品について資料を集めておく。|下絵が必要な版画制作の場合は予め準備する。|スケッチブック、刷る紙等は原則持参のこと。銅板は実費が必要。|安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題提出作品・レポート	80
制作・相互鑑賞への姿勢、授業態度、授業への貢献度	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
教員が版画作家としての経験を活かし、シルクスクリーン・銅版画等の表現技法を習得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要説明と4版種の説明		
2	モノタイプ制作 1		
3	モノタイプ制作 2		
4	ディビッド・スミス「芸術を学ぶ者への問い」について		
5	シルクスクリーン制作—版下作成		
6	シルクスクリーン制作—製版		
7	シルクスクリーン制作—印刷		
8	シルクスクリーン制作—印刷・解版		
9	モノタイプ作品・シルクスクリーン作品鑑賞, 合評		
10	作家研究資料収集、発表資料準備		

11	作家研究—版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 1
12	作家研究—版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 2
13	作家研究—版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 3
14	本学収蔵版画作品(浮世絵等)鑑賞
15	エンボス作品制作
16	銅版画試作—銅版準備、防食材塗布
17	銅版画試作—間接法(描画・腐食)
18	銅版画試作—間接法(アクアチント・スピットバイト・腐食)
19	銅版画試作—印刷
20	銅版画制作—防食材塗布、版下転写
21	銅版画制作—描画
22	銅版画制作—腐食
23	銅版画制作—描画と腐食
24	銅版画制作—試刷1
25	銅版画制作—加筆と腐食
26	銅版画制作—加筆と腐食
27	銅版画制作—試刷2, 修正
28	銅版画制作—本刷
29	銅版画作品鑑賞・合評1
30	銅版画作品鑑賞・合評2, 授業の振り返りとまとめ

科目名	芸術学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標

修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。|そのため各自の芸術分野での調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。||

授業概要

基本対面授業とする|本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。|各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野での調査と分析を論理的に行います。|またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得の|ためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。|

受講上の注意

各回、次回までの検討事項を課題とする。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
安藤英由樹の専門性: 博士(情報理工学), ヒューマン・インタフェース、バーチャルリアリティ、メディア芸術他			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンスと進め方の説明		
2	卒業論文の概要紹介と今後のテーマについての発表. これから議論する研究テーマの議論1		
3	卒業論文の概要紹介と今後のテーマについての発表. これから議論する研究テーマの議論2		
4	卒業論文の概要紹介と今後のテーマについての発表. これから議論する研究テーマの議論3		
5	研究のための調査方法の説明 1		
6	調査結果の発表 1		
7	研究のための調査方法の説明 2		
8	調査結果の発表 2		
9	研究のための調査方法の説明 3		
10	調査結果の発表 3		

11	調査結果から検討される研究テーマに関する議論と課題の発見1
12	調査結果から検討される研究テーマに関する議論と課題の発見2
13	調査結果から検討される研究テーマに関する議論と課題の発見3
14	各自設定した研究テーマの発表と講評1
15	各自設定した研究テーマの発表と講評2

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	石井 元章					
クラス名						
授業目的と到達目標						
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。						
授業概要						
【基本的に対面】学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。						
受講上の注意						
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
3	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
4	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
5	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
6	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
7	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
8	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
9	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
10	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
11	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
12	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
13	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
14	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	長野 順子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
美学・芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。						
授業概要						
対面授業 個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。						
受講上の注意						
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1	特になし。					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	授業中に紹介または配布する。					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入: 研究テーマの設定、文献・資料の収集、先行研究の検討と方法論の確認		
2	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討①		
3	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討②		
4	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討③		
5	資料収集と先行研究の検討①		
6	資料収集と先行研究の検討②		
7	資料収集と先行研究の検討③		
8	資料収集と先行研究の検討④		
9	文献紹介と研究報告①		
10	文献紹介と研究報告②		
11	文献紹介と研究報告③		
12	文献紹介と研究報告④		
13	文献紹介と研究報告⑤		

14	前期レポート作成①
15	前期レポート作成②

科目名	芸術学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

旧来の専門科目の枠に囚われず、研究テーマに適した様々な概念装置を、積極的に開発・活用しながら研究を進めてゆくことを目標とする。芸術学や批評理論にくわえて、哲学・現代思想・精神分析・メディア論・記号論等も適宜参考にし、ときには理科系の諸学の知見も援用する。諸芸術やデザイン、ポップカルチャーについて「現代的な」問題意識で考え感じようとする学生にとって、とりわけ触発や支援となる場の形成を目指してゆく。

授業概要

学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。

受講上の注意

受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスを行う。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名			著者名		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	1)受講者の研究テーマと現在利用している概念装置をと確認する。→2)授業の具体的なプログラムを共に立案する。→3)セッション →4)フィードバック → その後、3)と4)を繰り返す。また、ときおり有益なブレイクを挟む。				

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	青山 勝					
クラス名						
授業目的と到達目標						
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。						
授業概要						
個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。						
受講上の注意						
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)					

出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入: 研究テーマの設定、文献・資料の収集、先行研究の検討と方法論の確認		
2	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討①		
3	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討②		
4	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討③		
5	資料収集と先行研究の検討①		
6	資料収集と先行研究の検討②		
7	資料収集と先行研究の検討③		
8	資料収集と先行研究の検討④		
9	文献紹介と研究報告①		
10	文献紹介と研究報告②		
11	文献紹介と研究報告③		
12	文献紹介と研究報告④		
13	前期レポート作成①		

14	前期レポート作成②
15	前期の振り返りとまとめ

科目名	芸術学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標

修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。|そのため各自の芸術分野の中で調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。|

授業概要

基本対面授業とします|本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。|各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野の中で調査と分析を論理的に行います。|またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得の|ためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。|

受講上の注意

各回、次回までの検討事項を課題とする。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
安藤英由樹の専門性: 博士(情報理工学), ヒューマン・インタフェース、バーチャルリアリティ、メディア芸術他			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション1		
2	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評1		
3	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション2		
4	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評2		
5	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション3		
6	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評3		
7	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション4		
8	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評4		
9	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション5		
10	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評5		

11	調査報告の論理的な議論と記述1
12	調査報告の論理的な議論と記述2
13	調査報告の論理的な議論と記述3
14	調査報告の論理的な議論と記述4
15	執筆した文章をお互いに読み合うなどの発表会

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	石井 元章					
クラス名						
授業目的と到達目標						
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。						
授業概要						
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。						
受講上の注意						
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
2	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
3	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
4	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
5	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
6	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
7	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
8	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
9	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
10	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
11	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
12	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
13	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
14	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		

科目名	芸術学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標

美学・芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。

授業概要

対面授業|個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。

受講上の注意

各自のテーマについて文献調査を行い、論文作成に向けて努力する。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1	特になし。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	授業中に紹介または配布する。
-------	----------------

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化①		
2	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化②		
3	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化③		
4	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化④		
5	研究報告とディスカッション①		
6	研究報告とディスカッション②		
7	研究報告とディスカッション③		
8	研究報告とディスカッション④		
9	研究報告と課題の検討①		
10	研究報告と課題の検討②		
11	研究報告と課題の検討③		
12	研究報告と課題の検討④		
13	研究成果のまとめ①		

14	研究成果のまとめ②
15	研究成果のまとめ③

科目名	芸術学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

旧来の専門科目の枠に囚われず、研究テーマに適した様々な概念装置を、積極的に開発・活用しながら研究を進めてゆくことを目標とする。芸術学や批評理論にくわえて、哲学・現代思想・精神分析・メディア論・記号論等も適宜参考にし、ときには理科系の諸学の知見も援用する。諸芸術やデザイン、ポップカルチャーについて「現代的な」問題意識で考え感じようとする学生にとって、とりわけ触発や支援となる場の形成を目指してゆく。

授業概要

学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。

受講上の注意

受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスを行う。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1)受講者の研究テーマと現在利用している概念装置をと確認する。→2)授業の具体的なプログラムを共に立案する。→3)セッション →4)フィードバック → その後、3)と4)を繰り返す。また、ときおり有益なブレイクを挟む。		

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	青山 勝					
クラス名						
授業目的と到達目標						
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。						
授業概要						
個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。						
受講上の注意						
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)					

出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	後期への再導入。文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化①		
2	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化②		
3	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化③		
4	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化④		
5	研究報告とディスカッション①		
6	研究報告とディスカッション②		
7	研究報告とディスカッション③		
8	研究報告とディスカッション④		
9	研究報告と課題の検討①		
10	研究報告と課題の検討②		
11	研究報告と課題の検討③		
12	研究報告と課題の検討④		
13	研究成果のまとめ①		

14	研究成果のまとめ②
15	全体の振り返り

科目名	芸術学研究演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標

修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。|そのため各自の芸術分野の中で調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。

授業概要

基本対面授業とします|本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。|各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野の中で調査と分析を論理的に行います。|またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得の|ためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。

受講上の注意

各回、次回までの検討事項を課題とする。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
安藤英由樹の専門性: 博士(情報理工学), ヒューマン・インタフェース、バーチャルリアリティ、メディア芸術他			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション1		
2	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評1		
3	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション2		
4	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評2		
5	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション3		
6	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評3		
7	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション4		
8	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評4		
9	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション5		
10	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評5		

11	調査報告の論理的な議論と記述1
12	調査報告の論理的な議論と記述2
13	調査報告の論理的な議論と記述3
14	調査報告の論理的な議論と記述4
15	執筆した文章をお互いに読み合うなどの発表会

科目名	芸術学研究演習		年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	石井 元章					
クラス名						
授業目的と到達目標						
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。						
授業概要						
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。						
受講上の注意						
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
2	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
3	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
4	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
5	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
6	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
7	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
8	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
9	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
10	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
11	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
12	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
13	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
14	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		

科目名	芸術学研究演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

旧来の専門科目の枠に囚われず、研究テーマに適した様々な概念装置を、積極的に開発・活用しながら研究を進めてゆくことを目標とする。芸術学や批評理論にくわえて、哲学・現代思想・精神分析・メディア論・記号論等も適宜参考にし、ときには理科系の諸学の知見も援用する。諸芸術やデザイン、ポップカルチャーについて「現代的な」問題意識で考え感じようとする学生にとって、とりわけ触発や支援となる場の形成を目指してゆく。

授業概要

学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。

受講上の注意

受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスを行う。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名			著者名		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	1)受講者の研究テーマと現在利用している概念装置をと確認する。→2)授業の具体的なプログラムを共に立案する。→3)セッション →4)フィードバック → その後、3)と4)を繰り返す。また、ときおり有益なブレイクを挟む。				

科目名	芸術学研究演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標

修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。|そのため各自の芸術分野での調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。|

授業概要

基本対面授業とします|本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。|各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野での調査と分析を論理的に行います。|またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得の|ためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。|

受講上の注意

各回、次回までの検討事項を課題とする。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書情報

教科書1	
出版社名	著者名
教科書2	
出版社名	著者名
教科書3	
出版社名	著者名

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
安藤英由樹の専門性: 博士(情報理工学), ヒューマン・インタフェース、バーチャルリアリティ、メディア芸術他			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション1		
2	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評1		
3	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション2		
4	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評2		
5	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション3		
6	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評3		
7	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション4		
8	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評4		
9	各自の研究テーマに沿ってのために何をすべきかディスカッション5		
10	各自の研究テーマに沿って行ったことの報告発表と講評5		

11	調査報告の論理的な議論と記述1
12	調査報告の論理的な議論と記述2
13	調査報告の論理的な議論と記述3
14	調査報告の論理的な議論と記述4
15	執筆した文章をお互いに読み合うなどの発表会

科目名	芸術学研究演習		年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	石井 元章					
クラス名						
授業目的と到達目標						
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。						
授業概要						
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。						
受講上の注意						
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
2	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
3	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
4	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
5	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
6	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
7	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
8	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
9	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
10	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
11	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
12	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
13	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
14	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		

科目名	芸術学研究演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

旧来の専門科目の枠に囚われず、研究テーマに適した様々な概念装置を、積極的に開発・活用しながら研究を進めてゆくことを目標とする。芸術学や批評理論にくわえて、哲学・現代思想・精神分析・メディア論・記号論等も適宜参考にし、ときには理科系の諸学の知見も援用する。諸芸術やデザイン、ポップカルチャーについて「現代的な」問題意識で考え感じようとする学生にとって、とりわけ触発や支援となる場の形成を目指してゆく。

授業概要

学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。

受講上の注意

受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスを行う。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名			著者名		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	1)受講者の研究テーマと現在利用している概念装置をと確認する。→2)授業の具体的なプログラムを共に立案する。→3)セッション →4)フィードバック → その後、3)と4)を繰り返す。また、ときおり有益なブレイクを挟む。				

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	石井 元章					
クラス名						
授業目的と到達目標						
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。						
授業概要						
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。						
受講上の注意						
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
2	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
3	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
4	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
5	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
6	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
7	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
8	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
9	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
10	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
11	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
12	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
13	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
14	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		

科目名	芸術学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

旧来の専門科目の枠に囚われず、研究テーマに適した様々な概念装置を、積極的に開発・活用しながら研究を進めてゆくことを目標とする。芸術学や批評理論にくわえて、哲学・現代思想・精神分析・メディア論・記号論等も適宜参考にし、ときには理科系の諸学の知見も援用する。諸芸術やデザイン、ポップカルチャーについて「現代的な」問題意識で考え感じようとする学生にとって、とりわけ触発や支援となる場の形成を目指してゆく。

授業概要

学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。

受講上の注意

受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスを行う。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1)受講者の研究テーマと現在利用している概念装置をと確認する。→2)授業の具体的なプログラムを共に立案する。→3)セッション →4)フィードバック → その後、3)と4)を繰り返す。また、ときおり有益なブレイクを挟む。		

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	青山 勝					
クラス名						
授業目的と到達目標						
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。						
授業概要						
個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。						
受講上の注意						
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)					

出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入: 研究テーマの設定、文献・資料の収集、先行研究の検討と方法論の確認		
2	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討①		
3	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討②		
4	研究テーマに関連する文献の調査と先行研究の検討③		
5	資料収集と先行研究の検討①		
6	資料収集と先行研究の検討②		
7	資料収集と先行研究の検討③		
8	資料収集と先行研究の検討④		
9	文献紹介と研究報告①		
10	文献紹介と研究報告②		
11	文献紹介と研究報告③		
12	文献紹介と研究報告④		
13	前期レポート作成①		

14	前期レポート作成②
15	前期の振り返りとまとめ

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	石井 元章					
クラス名						
授業目的と到達目標						
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。						
授業概要						
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。						
受講上の注意						
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						
出版社名			著者名			

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
2	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
3	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
4	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
5	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
6	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
7	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
8	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
9	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
10	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
11	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
12	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
13	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		
14	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。		

科目名	芸術学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

旧来の専門科目の枠に囚われず、研究テーマに適した様々な概念装置を、積極的に開発・活用しながら研究を進めてゆくことを目標とする。芸術学や批評理論にくわえて、哲学・現代思想・精神分析・メディア論・記号論等も適宜参考にし、ときには理科系の諸学の知見も援用する。諸芸術やデザイン、ポップカルチャーについて「現代的な」問題意識で考え感じようとする学生にとって、とりわけ触発や支援となる場の形成を目指してゆく。

授業概要

学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。

受講上の注意

受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスを行う。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名			著者名		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	1)受講者の研究テーマと現在利用している概念装置をと確認する。→2)授業の具体的なプログラムを共に立案する。→3)セッション →4)フィードバック → その後、3)と4)を繰り返す。また、ときおり有益なブレイクを挟む。				

科目名	芸術学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	青山 勝					
クラス名						
授業目的と到達目標						
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。						
授業概要						
個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。						
受講上の注意						
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1						
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)					

出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	後期への再導入。文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化①		
2	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化②		
3	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化③		
4	文献・資料調査の続行、研究発表による問題点の明確化④		
5	研究報告とディスカッション①		
6	研究報告とディスカッション②		
7	研究報告とディスカッション③		
8	研究報告とディスカッション④		
9	研究報告と課題の検討①		
10	研究報告と課題の検討②		
11	研究報告と課題の検討③		
12	研究報告と課題の検討④		
13	研究成果のまとめ①		

14	研究成果のまとめ②
15	全体の振り返り

科目名	芸術学作品研究		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	片岡 淳					
クラス名						
授業目的と到達目標						
美術・工芸等各芸術表現・研究の立場から、課題研究の構築と体系化を通して、研究を深める。芸術・作品・研究とは、購読・簡単な実習を通して理解を深める。						
授業概要						
対面授業。ただし、状況により遠隔に変更あり。変更が発生した場合、速やかに掲示登録する。空間芸術表現(美術工芸・染織)を手がかりに論及していく。紙や糸などの素材と、簡単な道具による演習を行ない、理解を深めていく。定義や原理の理解にも簡単な演習を行なう。						
受講上の注意						
各自の分野の作家と作品を調べておいてください。シラバスは進度と受講生の取り組みでその都度変わります。予めあるいは事後でも欠席理由をお知らせください。公欠に出来ます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
受講姿勢				50		
レポート・提出作品・積極性				50		
教科書情報						
教科書1	コピーを必要に応じて配布します。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1	芸術学		
出版社名	東京大学出版局	著者名	渡辺 護
参考書名2	臨床する芸術学		
出版社名	昭和堂	著者名	小林昌廣
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
レポートまたは演習を課します。海外の論文のレビュー依頼を受けているので、その経験をもとにジャーナルへの投稿など知識や情報を指導する。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	本時科目について、シラバスをもとに講義のガイダンスを行なう。「芸術」とは、「作品」とは、「研究」とは。 受講生の専門分野の紹介。		
2	芸術の分野 「空間」と「時間」		
3	芸術・アートとは何か。 表現したものは、すべてアートか。		
4	歴史と特色 明治にできたことば。		
5	芸術の分野と分類 分類を通して、分野を理解する。		
6	日本文化の特色。 「道」と「芸」		
7	系統立てる。		
8	各自の研究分野・姿勢のキーワードの抽出		
9	分類の発表		

10	原理の理解
11	モノ派の演習 1 素材の特色を引き出すとは。
12	作品とは。
13	作品とは。
14	批評とは。 ディベート法による討論の試み。
15	前期総括 「作品とはなにか」、一人の作家の変遷・作品について批評しなさい。
16	レポートの発表と講評 講評の仕方「すべて否定的発言」・「すべて肯定的発言」と受け手の反応
17	作品の成立条件について
18	演習 2
19	提出と講評
20	分類はそもそも可能か。
21	行為と記録
22	ものの理解
23	美とは
24	表現したものは、アートになり得るか。
25	研究とは たとえば、西洋絵画には影が描かれるが、日本画は描かないのはなぜか。
26	作家について 関心のある作家の本を手がかりに、制作と背景について考える。
27	作家について
28	各自の制作・研究分野組織表づくり
29	各自の制作・研究分野組織表づくり・発表
30	総括

科目名	芸術学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の近代詩と近代彫刻を代表する高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じる。あわせて彫刻をめぐる様々な問題について考察し理解を深める。

授業概要

対面授業| 高村光太郎は詩人として有名だが、日本の近代彫刻を代表する彫刻家である。彼は詩作や彫刻制作と並行して夥しい評論を執筆し、彫刻と詩は言うまでもなく、ひろく美術、文芸、芸術全般について論じている。授業では高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じるとともに、彫刻の本質、彫刻と詩との関係、さらに日本における西洋彫刻の受容など、彫刻をめぐる様々な問題について考察する。

受講上の注意

授業内容を参考にして、自分自身の経験を踏まえて、あるいは想像力を働かせて、授業で取り上げるテーマについて、自分の思ったこと考えたことを言葉にする努力をしてほしい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点	50
レポート	50

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 はじめに		
2	【対面】 高村光太郎の略歴について		
3	【対面】 高村光太郎と父高村光雲との関係について論じる。高村光雲は江戸生まれの仏師だが、後に東京美術学校の教授となり、近代日本を代表する木彫家となった。光雲と光太郎の関係は複雑であり、いわゆる父子関係という問題だけではなく、明治という一大変革期において、いわゆる美術は全体としてどのように変わってゆくのかという大きな問題と深く関わっている。 光雲と光太郎の関係を手がかりにして、職人的制作と芸術家的制作との関係、徒弟修業と美術学校教育との関係、そして伝統的な日本彫刻と、明治になって日本に移入された西洋彫刻		
4	【対面】 前回の続き。		
5	【対面】 前回の続き。		
6	【対面】 前回の続き。		

7	【対面】 前回の続き。
8	【対面】 前回の続き。
9	【対面】 前回の続き。
10	【対面】 前回の続き。
11	【対面】 高村光太郎とロダンとの関係について論じる。明治以降の日本の近代彫刻はロダンの著しい影響下に展開した。光太郎はロダンの作風と思想を日本に紹介した立役者の一人である。ロダンの圧倒的な影響下にあった光太郎は、やがてロダンとの違い、隔たりを意識することになる。光太郎とロダンとの関係は明治以降における日本と西洋との関係、さらには東洋と西洋における世界観・人間観の違いに深く関わっている。
12	【対面】 前回の続き。
13	【対面】 前回の続き。
14	【対面】 前回の続き。
15	【対面】 前回の続き。
16	【対面】 高村光太郎の彫刻論について論じる。光太郎は生涯にわたって彫刻を論じ続けた。彫刻の本質、歴史、技法、作家論等、彫刻に関するあらゆるテーマについて、彼ほど執拗に徹底的に論じた人は少ない。彼にとって彫刻を論じることは単に理論上のことばかりでなく、鑑賞と制作の両面にわたる体験を積み重ねることで形成されてゆく自らの彫刻観を思索と言語を通じて明確にし普遍化しようとする不断の試みであった。
17	【対面】 前回の続き。
18	【対面】 前回の続き。
19	【対面】 前回の続き。
20	【対面】 前回の続き。
21	【対面】 前回の続き。
22	【対面】 前回の続き。
23	【対面】 前回の続き。
24	【対面】 前回の続き。
25	【対面】 高村光太郎における彫刻と詩との関係について論じる。とくに彫刻制作および彫刻作品を直接テーマとした詩を取り上げる。
26	【対面】 前回の続き。
27	【対面】 前回の続き。
28	【対面】 前回の続き。

29	【対面】 前回の続き。
30	【対面】 むすび

科目名	芸術学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	木塚 あゆみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

美術、工芸、アートサイエンス等、各芸術表現・研究の立場から、国際的な視点から課題研究の構築と体系化を通して研究を深める。芸術・作品・研究について、購読や簡単な実習を通して理解を深める。

授業概要

電子工作・プログラミング・その他を用いたアートサイエンス表現を手がかりに論及する。各自の芸術表現に用いる素材や電子部品等を使って、簡単なプログラミングを施す演習を行ない、理解を深める。論文などの文献を読むことにより、国内外の最先端の空間芸術表現を理解し、実際の表現活動を通して、アートサイエンスの定義や原理を理解する。

受講上の注意

各自の分野の作家や作品を調べておくこと。|授業計画は受講者の取り組みや進捗に応じて変更することがある。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
授業への取り組み	30
課題(レポート・中間成果物・最終成果物)への取り組み	70

教科書情報

教科書1	教科書なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	メディア・アート創世記ー科学と芸術の出会い		
出版社名	工作舎	著者名	坂根厳夫
参考書名2	アートとコンピュータ		
出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	藤幡正樹
参考書名3	日本メディアアート史		
出版社名	アルテスパブリッシング	著者名	馬定延
参考書名4	メディアアートの教科書		
出版社名	フィルムアート社	著者名	白井雅人, 森公一, 砥綿正之, 泊博雅
参考書名5	メディア・アート原論		
出版社名	フィルムアート社	著者名	久保田晃弘
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
デザイナー(サービス、アプリケーション、インタラクティブシステム、教材)、研究者(デザイン、コンピュータと教育、インタラクション)			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「芸術学作品研究」の講義ガイダンスをおこなう。「芸術」、「作品」、「研究」とは何か。 受講生の専門分野の紹介。		
2	芸術の分野、アートサイエンスの分野 「空間」と「時間」		
3	芸術・アートとは何か 「素材」と「質感」		
4	芸術の歴史と特色		
5	芸術の分野と分類		
6	最先端の芸術表現(論文を読む)		
7	各自研究分野における位置づけとキーワードの抽出		
8	作品の計画		

9	素材の抽出
10	素材と制作方法の理解
11	作品と批評 グループ討論など(批判的思考、ファシリテーション、傾聴)
12	作品と批評(まとめ)
13	演習1:空間芸術表現の計画
14	演習2:空間芸術表現の方法
15	前期総括 「作品とはなにか」一人の作家の変遷・作品について批評する
16	前期内容の振り返りと講評 講評とは
17	演習3:空間芸術表現の制作 1
18	演習 4:空間芸術表現の制作2
19	演習5:空間芸術表現の発表1
20	演習 6:空間芸術表現の制作 3
21	演習 7:空間芸術表現の仕上げ
22	演習 8:空間芸術表現の発表2
23	研究と作品の評価について 各自分野の作品に関する研究トピックの抽出
24	研究と作品の評価について 各自分野の作品に関する研究トピックの追求
25	研究と作品の評価について(発表とまとめ)
26	作家について 関心のある作家の本を手がかりに、制作と背景について考える
27	作家について(発表とまとめ)
28	各自の制作・研究分野組織表づくり
29	各自の制作・研究分野組織表づくり(発表)
30	振り返りと総括

科目名	芸術学作品研究		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	片岡 淳					
クラス名						
授業目的と到達目標						
美術・工芸等各芸術表現・研究の立場から、課題研究の構築と体系化を通して、研究を深める。芸術・作品・研究とは、購読・簡単な実習を通して理解を深める。						
授業概要						
対面授業。ただし、状況により遠隔に変更あり。変更が発生した場合、速やかに掲示登録する。空間芸術表現(美術工芸・染織)を手がかりに論及していく。紙や糸などの素材と、簡単な道具による演習を行ない、理解を深めていく。定義や原理の理解にも簡単な演習を行なう。						
受講上の注意						
各自の分野の作家と作品を調べておいてください。シラバスは進度と受講生の取り組みでその都度変わります。予めあるいは事後でも欠席理由をお知らせください。公欠に出来ます。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
受講姿勢				50		
レポート・提出作品・積極性				50		
教科書情報						
教科書1	コピーを必要に応じて配布します。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1	芸術学		
出版社名	東京大学出版局	著者名	渡辺 護
参考書名2	臨床する芸術学		
出版社名	昭和堂	著者名	小林昌廣
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
レポートまたは演習を課します。海外の論文のレビュー依頼を受けているので、その経験をもとにジャーナルへの投稿など知識や情報を指導する。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1～15 まで対面授業を予定。但し状況により UNIPA 開催の場合は速やかに連絡する。 本時科目について、シラバスをもとに講義のガイダンスを行なう。「芸術」とは、「作品」とは、「研究」とは。 受講生の専門分野の紹介。		
2	芸術の分野 「空間」と「時間」		
3	芸術・アートとは何か。 表現したものは、すべてアートか。		
4	歴史と特色 明治にできたことば。		
5	芸術の分野と分類 分類を通して、分野を理解する。		
6	日本文化の特色。 「道」と「芸」		
7	系統立てる。		
8	各自の研究分野・姿勢のキーワードの抽出		
9	分類の発表		

10	原理の理解
11	モノ派の演習 1 素材の特色を引き出すとは。
12	作品とは。
13	作品とは。
14	批評とは。 ディベート法による討論の試み。
15	前期総括 「作品とはなにか」、一人の作家の変遷・作品について批評しなさい。
16	レポートの発表と講評 講評の仕方「すべて否定的発言」・「すべて肯定的発言」と受け手の反応
17	作品の成立条件について
18	演習 2
19	提出と講評
20	分類はそもそも可能か。
21	行為と記録
22	ものの理解
23	美とは
24	表現したものは、アートになり得るか。
25	研究とは たとえば、西洋絵画には影が描かれるが、日本画は描かないのはなぜか。
26	作家について 関心のある作家の本を手がかりに、制作と背景について考える。
27	作家について
28	各自の制作・研究分野組織表づくり
29	各自の制作・研究分野組織表づくり・発表
30	総括

科目名	芸術学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の近代詩と近代彫刻を代表する高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じる。あわせて彫刻をめぐる様々な問題について考察し理解を深める。

授業概要

対面授業| 高村光太郎は詩人として有名だが、日本の近代彫刻を代表する彫刻家である。彼は詩作や彫刻制作と並行して夥しい評論を執筆し、彫刻と詩は言うまでもなく、ひろく美術、文芸、芸術全般について論じている。授業では高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じるとともに、彫刻の本質、彫刻と詩との関係、さらに日本における西洋彫刻の受容など、彫刻をめぐる様々な問題について考察する。

受講上の注意

授業内容を参考にして、自分自身の経験を踏まえて、あるいは想像力を働かせて、授業で取り上げるテーマについて、自分の思ったこと考えたことを言葉にする努力をしてほしい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点	50
レポート	50

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 はじめに		
2	【対面】 高村光太郎の略歴について		
3	【対面】 高村光太郎と父高村光雲との関係について論じる。高村光雲は江戸生まれの仏師だが、後に東京美術学校の教授となり、近代日本を代表する木彫家となった。光雲と光太郎の関係は複雑であり、いわゆる父子関係という問題だけではなく、明治という一大変革期において、いわゆる美術は全体としてどのように変わってゆくのかという大きな問題と深く関わっている。 光雲と光太郎の関係を手がかりにして、職人的制作と芸術家的制作との関係、徒弟修業と美術学校教育との関係、そして伝統的な日本彫刻と、明治になって日本に移入された西洋彫刻		
4	【対面】 前回の続き。		
5	【対面】 前回の続き。		
6	【対面】 前回の続き。		

7	【対面】 前回の続き。
8	【対面】 前回の続き。
9	【対面】 前回の続き。
10	【対面】 前回の続き。
11	【対面】 高村光太郎とロダンとの関係について論じる。明治以降の日本の近代彫刻はロダンの著しい影響下に展開した。光太郎はロダンの作風と思想を日本に紹介した立役者の一人である。ロダンの圧倒的な影響下にあった光太郎は、やがてロダンとの違い、隔たりを意識することになる。光太郎とロダンとの関係は明治以降における日本と西洋との関係、さらには東洋と西洋における世界観・人間観の違いに深く関わっている。
12	【対面】 前回の続き。
13	【対面】 前回の続き。
14	【対面】 前回の続き。
15	【対面】 前回の続き。
16	【対面】 高村光太郎の彫刻論について論じる。光太郎は生涯にわたって彫刻を論じ続けた。彫刻の本質、歴史、技法、作家論等、彫刻に関するあらゆるテーマについて、彼ほど執拗に徹底的に論じた人は少ない。彼にとって彫刻を論じることは単に理論上のことばかりでなく、鑑賞と制作の両面にわたる体験を積み重ねることで形成されてゆく自らの彫刻観を思索と言語を通じて明確にし普遍化しようとする不断の試みであった。
17	【対面】 前回の続き。
18	【対面】 前回の続き。
19	【対面】 前回の続き。
20	【対面】 前回の続き。
21	【対面】 前回の続き。
22	【対面】 前回の続き。
23	【対面】 前回の続き。
24	【対面】 前回の続き。
25	【対面】 高村光太郎における彫刻と詩との関係について論じる。とくに彫刻制作および彫刻作品を直接テーマとした詩を取り上げる。
26	【対面】 前回の続き。
27	【対面】 前回の続き。
28	【対面】 前回の続き。

29	【対面】 前回の続き。
30	【対面】 むすび

科目名	芸術学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	木塚 あゆみ				
クラス名					

授業目的と到達目標

美術、工芸、アートサイエンス等、各芸術表現・研究の立場から、国際的な視点から課題研究の構築と体系化を通して研究を深める。芸術・作品・研究について、購読や簡単な実習を通して理解を深める。

授業概要

電子工作・プログラミング・その他を用いたアートサイエンス表現を手がかりに論及する。各自の芸術表現に用いる素材や電子部品等を使って、簡単なプログラミングを施す演習を行ない、理解を深める。論文などの文献を読むことにより、国内外の最先端の空間芸術表現を理解し、実際の表現活動を通して、アートサイエンスの定義や原理を理解する。

受講上の注意

各自の分野の作家や作品を調べておくこと。|授業計画は受講者の取り組みや進捗に応じて変更することがある。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
授業への取り組み	30
課題(レポート・中間成果物・最終成果物)への取り組み	70

教科書情報

教科書1	教科書なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	メディア・アート創世記ー科学と芸術の出会い		
出版社名	工作舎	著者名	坂根厳夫
参考書名2	アートとコンピュータ		
出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	藤幡正樹
参考書名3	日本メディアアート史		
出版社名	アルテスパブリッシング	著者名	馬定延
参考書名4	メディアアートの教科書		
出版社名	フィルムアート社	著者名	白井雅人, 森公一, 砥綿正之, 泊博雅
参考書名5	メディア・アート原論		
出版社名	フィルムアート社	著者名	久保田晃弘
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
デザイナー(サービス、アプリケーション、インタラクティブシステム、教材)、研究者(デザイン、コンピュータと教育、インタラクション)			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「芸術学作品研究」の講義ガイダンスをおこなう。「芸術」、「作品」、「研究」とは何か。 受講生の専門分野の紹介。		
2	芸術の分野、アートサイエンスの分野 「空間」と「時間」		
3	芸術・アートとは何か 「素材」と「質感」		
4	芸術の歴史と特色		
5	芸術の分野と分類		
6	最先端の芸術表現(論文を読む)		
7	各自研究分野における位置づけとキーワードの抽出		
8	作品の計画		

9	素材の抽出
10	素材と制作方法の理解
11	作品と批評 グループ討論など(批判的思考、ファシリテーション、傾聴)
12	作品と批評(まとめ)
13	演習1:空間芸術表現の計画
14	演習2:空間芸術表現の方法
15	前期総括 「作品とはなにか」一人の作家の変遷・作品について批評する
16	前期内容の振り返りと講評 講評とは
17	演習3:空間芸術表現の制作 1
18	演習 4:空間芸術表現の制作2
19	演習5:空間芸術表現の発表1
20	演習 6:空間芸術表現の制作 3
21	演習 7:空間芸術表現の仕上げ
22	演習 8:空間芸術表現の発表2
23	研究と作品の評価について 各自分野の作品に関する研究トピックの抽出
24	研究と作品の評価について 各自分野の作品に関する研究トピックの追求
25	研究と作品の評価について(発表とまとめ)
26	作家について 関心のある作家の本を手がかりに、制作と背景について考える
27	作家について(発表とまとめ)
28	各自の制作・研究分野組織表づくり
29	各自の制作・研究分野組織表づくり(発表)
30	振り返りと総括

科目名	芸術学特論		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	講義		
教員名	加藤 哲弘					
クラス名						
授業目的と到達目標						
芸術を制作することとも楽しむこととも異なる、芸術を「学ぶ」ということについて正確で包括的な理解を得ることを講義の目的とする。本講義で得られた知見を各自の作品制作や批評活動に活かすとともに、受講生が、芸術を学ぶ大学院生として、自らの立脚点を自覚できるようになることを目指したい。						
授業概要						
対面授業 第2回から第15回まで、芸術の定義、分類、各ジャンルの構造、芸術の機能、起源、歴史、グローバルな広がりなど、芸術をめぐる諸問題を順次取り上げて、その紹介と討論を行う。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。						
受講上の注意						
講義開始の前に指示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに問題意識とともに理解するようにすること。また、機会があれば、美術館における作品展示を見たり、多様なジャンルの芸術を積極的に体験するようにしておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への回答など)				100		
教科書情報						
教科書1	授業内でプリントを配布する。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美学の事典		
出版社名	平凡出版	著者名	美学会編
参考書名2	芸術学フォーラム		
出版社名	勁草書房	著者名	谷村/原田/神林 責任編集
参考書名3	芸術学を学ぶ人のために		
出版社名	I 世界思想社	著者名	大田喬夫編
参考書名4	芸術理論古典文献アンソロジー(西洋篇)		
出版社名	幻冬舎	著者名	加藤哲弘編
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	04/11 芸術と芸術学 授業内容の概観		
2	04/18 芸術の定義 芸術とは何か?		
3	04/25 芸術の分類 「ジャンル」とその多様性		
4	05/02 芸術の構造(空間芸術1)絵画		
5	05/09 芸術の構造(空間芸術2)彫刻		
6	05/16 芸術の構造(空間芸術3)工芸		
7	05/23 芸術の構造(空間芸術4)建築		
8	05/30 芸術の構造(時間芸術1)文学		
9	06/06 芸術の構造(時間芸術2)音楽		

10	06/13 芸術の構造(総合芸術1)演劇
11	06/20 芸術の構造(総合芸術2)映画
12	06/27 芸術の機能 美的機能と目的機能
13	07/04 芸術の起源 原始芸術と近代芸術
14	07/11 芸術の歴史 芸術史の展開
15	07/25 芸術の広がり 芸術人類学とグローバルアート
16	09/12 近代芸術から現代アートへ 芸術をめぐる現代の状況
17	09/26 近代美術 グリーンバーグ『近代芸術と文化』
18	10/03 近代美術 ベル『アート』(Bloomsbury Gr, significant form)
19	10/11(火) 近代建築 ギーディオン『時間・空間・建築』
20	10/17 近代の終焉 ジェンクス『ポストモダニズムの建築原語』
21	10/24 芸術の終焉 ダントー『芸術の終焉』
22	11/07 メディア論 マクルーハン『ゲーテンベルクの銀河系』
23	11/14 視覚文化論 フーコー『言葉と物』
24	11/21 19世紀における美術と技術 クレーリー『観察者の系譜』
25	11/28 18世紀における科学と身体 スタッフォード『ボディ・クリティシズム』
26	12/05 ポストコロニアリズム サイード『オリエンタリズム』
27	12/12 美術とジェンダー ポロック『視線と差異』
28	12/19 日本の近代美術 北沢憲昭『眼の神殿』
29	01/16 日本の現代美術 榎本野衣『日本・現代・美術』
30	01/23 まとめと質問

科目名	芸術学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標

美学・芸術学の主要トピックに関する基本的な研究方法を学び、それらについて複数の角度から考察する力を養う。|その上で各自の関心にもとづく論の組み立て方とプレゼンテーションの仕方を身につける。|

授業概要

対面授業|通常は「美」と対比される「崇高」と「醜」について考察する。|まず古代ギリシア以来の「崇高」への憧憬から近・現代の「崇高」論までの流れをその事例を含めて辿る。さらに近世以降の「グロテスク」、「ゴシック」的なもの、「不気味」なものの事例やそれらをめぐる思想を跡づけ、「美」よりもむしろ「醜」のインパクトを強調しようとする芸術の傾向について考察する。|後期後半は各自の発表とディスカッションを中心に進めていく。なお、受講者の関心に応じて授業計画は変更する可能性がある。|

受講上の注意

配布する資料についての予習・復習を必要とする。|受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書情報

教科書1	授業中に指示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2	美学 ジェンダーの視点から{ >> ,http://lib-op2.osaka-geidai.ac.jp/opac/opac_link/bibid/6000610728}		
出版社名	三元社	著者名	C. コースマイヤー
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	導入		
2	崇高論の展開①		
3	崇高論の展開②		
4	崇高論の展開③		
5	崇高論の展開④		
6	近・現代の崇高①		
7	近・現代の崇高②		
8	近・現代の崇高③		
9	グロテスク①		
10	グロテスク②		

11	グロテスク③
12	ゴシック①
13	ゴシック②
14	ゴシック③
15	前期のまとめ
16	不気味なもの①
17	不気味なもの②
18	不気味なもの③
19	醜の美学①
20	醜の美学②
21	醜の美学③
22	醜の美学④
23	醜の美学⑤
24	各自の発表とディスカッション①
25	各自の発表とディスカッション②
26	各自の発表とディスカッション③
27	各自の発表とディスカッション④
28	各自の発表とディスカッション⑤
29	各自の発表とディスカッション⑥
30	後期のまとめ

科目名	芸術学特論		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	講義		
教員名	加藤 哲弘					
クラス名						
授業目的と到達目標						
現代美術における古典的作品と現代美術を論じる古典的な批評言説についての基本的な理解を得ることを目的とする。本講義で得られた知見を各自の作品制作や批評活動に活かすとともに、受講生が、芸術を学ぶ大学院生として、自らの立脚点を自覚できるようになることを目指したい。						
授業概要						
対面授業 基本的にはテキスト(日本語訳)の講読と討論を通して、現代アートを論じる際に念頭に置いておくべき基礎的な文献の解題を行う。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。						
受講上の注意						
講義中に指示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに問題意識とともに理解するようにすること。また、機会があれば、ビエンナーレや国際展などの現代アートの展覧会を訪れたり、美術館における作品展示を見たりしておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)				100		
教科書情報						
教科書1	授業内でプリントを配布する。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	美学の事典		
出版社名	平凡出版	著者名	
参考書名2	芸術理論古典文献アンソロジー(西洋篇)		
出版社名	幻冬舎	著者名	加藤哲弘編
参考書名3	芸術を学ぶ人のために		
出版社名	世界思想社	著者名	大田喬夫編
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	09/12 近代芸術から現代アートへ 芸術をめぐる現代の状況		
2	09/26 近代美術 グリーンバーグ『近代芸術と文化』		
3	10/03 近代美術 ベル『アート』(Bloomsbury Group, significant form)		
4	10/11(火) 近代建築 ギーディオン『時間・空間・建築』		
5	10/17 近代の終焉 ジェンクス『ポストモダニズムの建築原語』		
6	10/24 芸術の終焉 ダントー『芸術の終焉』		
7	11/07 メディア論 マクラーハン『ゲーテンベルクの銀河系』		
8	11/14 視覚文化論 フーコー『言葉と物』		
9	11/21 19世紀における美術と技術 クレーリー『観察者の系譜』		

10	11/28 18 世紀における科学と身体 スタッフォード『ボディ・クリティシズム』
11	12/05 ポストコロニアリズム サイード『オリエンタリズム』
12	12/12 美術とジェンダー ポロック『視線と差異』
13	12/19 日本の近代美術 北沢憲昭『眼の神殿』
14	01/16 日本の現代美術 榎木野衣『日本・現代・美術』
15	01/23 まとめと質問

科目名	芸術学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標

美学・芸術学の主要トピックに関する基本的な研究方法を学び、それらについて複数の角度から考察する力を養う。|その上で各自の関心にもとづく論の組み立て方とプレゼンテーションの仕方を身につける。|

授業概要

対面授業|通常は「美」と対比される「崇高」と「醜」について考察する。|まず古代ギリシア以来の「崇高」への憧憬から近・現代の「崇高」論までの流れをその事例を含めて辿る。さらに近世以降の「グロテスク」、「ゴシック」的なもの、「不気味」なものの事例やそれらをめぐる思想を跡づけ、「美」よりもむしろ「醜」のインパクトを強調しようとする芸術の傾向について考察する。|後期後半は各自の発表とディスカッションを中心に進めていく。なお、受講者の関心に応じて授業計画は変更する可能性がある。|

受講上の注意

配布する資料についての予習・復習を必要とする。|受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書情報

教科書1	授業中に提示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2	美学 ジェンダーの視点から{ >> ,http://lib-op2.osaka-geidai.ac.jp/opac/opac_link/bibid/6000610728}		
出版社名	三元社	著者名	C. コースマイヤー
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	不気味なもの①		
2	不気味なもの②		
3	不気味なもの③		
4	醜の美学①		
5	醜の美学②		
6	醜の美学③		
7	醜の美学④		
8	醜の美学⑤		
9	各自の発表とディスカッション①		
10	各自の発表とディスカッション②		

11	各自の発表とディスカッション③
12	各自の発表とディスカッション④
13	各自の発表とディスカッション⑤
14	各自の発表とディスカッション⑥
15	後期のまとめ

科目名	芸術学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標

美学・芸術学の主要トピックに関する基本的な研究方法を学び、それらについて複数の角度から考察する力を養う。|その上で各自の関心にもとづく論の組み立て方とプレゼンテーションの仕方を身につける。|

授業概要

対面授業|通常は「美」と対比される「崇高」と「醜」について考察する。|まず古代ギリシア以来の「崇高」への憧憬から近・現代の「崇高」論までの流れをその事例を含めて辿る。さらに近世以降の「グロテスク」、「ゴシック」的なもの、「不気味」なものの事例やそれらをめぐる思想を跡づけ、「美」よりもむしろ「醜」のインパクトを強調しようとする芸術の傾向について考察する。|後期後半は各自の発表とディスカッションを中心に進めていく。なお、受講者の関心に応じて授業計画は変更する可能性がある。|

受講上の注意

配布する資料についての予習・復習を必要とする。|受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書情報

教科書1	授業中に提示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2	美学 ジェンダーの視点から{ >> ,http://lib-op2.osaka-geidai.ac.jp/opac/opac_link/bibid/6000610728}		
出版社名	三元社	著者名	C. コースマイヤー
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	不気味なもの①		
2	不気味なもの②		
3	不気味なもの③		
4	醜の美学①		
5	醜の美学②		
6	醜の美学③		
7	醜の美学④		
8	醜の美学⑤		
9	各自の発表とディスカッション①		
10	各自の発表とディスカッション②		

11	各自の発表とディスカッション③
12	各自の発表とディスカッション④
13	各自の発表とディスカッション⑤
14	各自の発表とディスカッション⑥
15	後期のまとめ

科目名	現代美術特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標

現代アート of 諸潮流におけるアーティストたちの様々な制作活動を辿るとともに、それらをめぐる理論的言説を見ていく。「芸術」とはなにか。「芸術家」とはだれか。「オリジナル」とはなにを意味するのか。「作品」の「受容」とはどのような経験か。伝統的に自明であるとされてきたこれらの概念装置に疑問符をつきつける試みとして、現代アートの諸動向を概観し、これからのアートのあり方について考える。

授業概要

対面授業|今年度は、19 世紀末から 20 世紀前半にフランスのパリを中心に生まれた前衛芸術の潮流とそこでの日本人アーティストの活動をめぐって、(1)諸芸術の交差、(2)文化の編み合わせ、という二つの視点から追跡する。それを通して、現代アートを特徴づける「パフォーマンス」という要素の萌芽を探る。後半は「パフォーマンス」に関するテキスト読解と受講生の研究発表を中心にする。

受講上の注意

配布する資料についての予習・復習を必要とする。受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。

成績評価方法・基準

種別	割合 (%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書情報

教科書1	授業中に指示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業で扱うテーマへの各自の主体的な取り組みを重視する。 どの芸術ジャンルも、それが生み出された状況や場との関わりを考えることで「面白さ」が増してくる。各自の関心を深めてほしい。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1) 導入 2) 前衛劇の誕生 3) 「超人形論」 4) 人形と仮面 5) アポリネールとアルベール=ピロ 6) アルベール=ピロの実験演劇 7) バレエ・リュスとバレエ・スエドワ 8) 舞踊家小森敏と音楽家松山芳野里 9) 「ル・マスク(修禅寺物語)」ノリ公演		

	10) 中間のまとめ
	11)「パフォーマンス」について
	12)「パフォーマンス」の身体性
	13)「パフォーマンス」の空間性
	14)「パフォーマンス」の時間性
	15) 各自の研究発表
	16) 全体のまとめ

科目名	現代美術特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標

現代アート of 諸潮流におけるアーティストたちの様々な制作活動を辿るとともに、それらをめぐる理論的言説を見ていく。「芸術」とはなにか。「芸術家」とはだれか。「オリジナル」とはなにを意味するのか。「作品」の「受容」とはどのような経験か。伝統的に自明であるとされてきたこれらの概念装置に疑問符をつきつける試みとして、現代アートの諸動向を概観し、これからのアートのあり方について考える。

授業概要

対面授業|今年度は、19 世紀末から 20 世紀前半にフランスのパリを中心に生まれた前衛芸術の潮流とそこでの日本人アーティストの活動をめぐって、(1)諸芸術の交差、(2)文化の編み合わせ、という二つの視点から追跡する。それを通して、現代アートを特徴づける「パフォーマンス」という要素の萌芽を探る。後半は「パフォーマンス」に関するテキスト読解と受講生の研究発表を中心にする。

受講上の注意

配布する資料についての予習・復習を必要とする。受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書情報

教科書1	授業中に指示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業で扱うテーマへの各自の主体的な取り組みを重視する。 どの芸術ジャンルも、それが生み出された状況や場との関わりを考えることで「面白さ」が増してくる。各自の関心を深めてほしい。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1) 導入 2) 前衛劇の誕生 3) 「超人形論」 4) 人形と仮面 5) アポリネールとアルベール=ピロ 6) アルベール=ピロの実験演劇 7) バレエ・リュスとバレエ・スエドワ 8) 舞踊家小森敏と音楽家松山芳野里 9) 「ル・マスク(修禅寺物語)」ノリ公演		

	10) 中間のまとめ
	11)「パフォーマンス」について
	12)「パフォーマンス」の身体性
	13)「パフォーマンス」の空間性
	14)「パフォーマンス」の時間性
	15) 各自の研究発表
	16) 全体のまとめ

科目名	原典研究Ⅴ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	西岡 陽子				
クラス名					

授業目的と到達目標

『隔メイ(くさかんむりに冥)記』(かくめいき)を読解することを通して、古文・漢文の基礎的な読解力を付け、近世初頭の京都における芸術、芸能に対する理解を深める。|||

授業概要

対面授業。『隔メイ(くさかんむりに冥)記』は、近世初頭の京都において、鹿苑寺通称金閣寺の住職であった鳳林承章の漢文日記である。彼の日記には、茶道・華道・演劇・音楽・絵画・陶芸など寛永文化を構成した多様な芸術の動向が記され、これを読解することを通して、近世初頭の芸術、芸能の動向を具体的に学ぶ。そのために、まずは、古典や漢文読解の力を養成することからはじめ、各自の担当を決めて輪読形式で進めて行く。|||

受講上の注意

普段なじみのないテキストを読むことになるので、予習復習は欠かせない。|一見取りつきにくい、基本的知識さえ習得すれば読めるようになるので努力をしてほしい。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
発表	50
授業への参加の姿勢	25
レポート	25

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
テキスト・人名辞典、用語辞典はコピーを配布。漢和辞典必携。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の目的、『隔メイ記』の概説、単位取得の条件など授業についての導入。		
2	筆者鳳林承章と金閣寺についての概説。用語事典・人名辞典の活用の仕方概説。		
3	寛永文化について概説。近世初頭の京都の歴史的社会的状況の概説。		
4	テキスト読解の基礎知識の講義および演習。本文読解に必要な基礎的知識を講義しながら読み進む。また合わせて漢文読み下しの方法など の演習。今年度は寛永 19 年 7 月 1 日から。		
5	テキスト読解の基礎知識の講義＝本文読解に必要な基礎的知識を講義しながら読み進む。 重点テーマ＝和製漢文の理解と古語		
6	テキスト読解の基礎知識の講義＝本文読解に必要な基礎的知識を講義しながら読み進む。 重点テーマ＝古文の敬語		

7	事前に担当を決めて発表形式で読解の演習。最初は各自1日分ずつを担当。レジュメを用意すること。 重点テーマ＝京都という都市の理解
8	同前。重点テーマ＝禅宗寺院の生活
9	同前。重点テーマ＝鳳林承章をめぐる人々
10	同前。重点テーマ＝贈答の慣習
11	同前。重点テーマ＝茶道
12	金閣寺、相国寺、北野天満宮、平野神社など『隔?記』の舞台、あるいは頻出する関係寺社の見学を通して 歴史地理的感覚を養う。
13	各自の発表の続き。重点テーマ日本における寺院と神社。
14	同前。
15	前期授業の総括と前期レポートについての注意
16	前期授業内容の確認。
17	前期レポートの講評。場合によれば追加訂正等。
18	前期に引き続いて、各自の発表。徐々に担当範囲を増やしていく。重点テーマ＝禅宗寺院の生活
19	同前。重点テーマ＝鹿苑寺をめぐる禅宗寺院
20	同前。重点テーマ＝他宗派の寺院との交流
21	同前。重点テーマ＝禅宗寺院の生活
22	同前。重点テーマ＝江戸幕府の京都支配と禅宗寺院
23	同前。重点テーマ＝鹿苑寺門前の人々
24	同前。重点テーマ＝鹿苑寺の年中行事
25	同前。重点テーマ＝鳳林承章の学問と芸能
26	鳳林承章をめぐる芸術(書画・文学・工芸・芸能など)を考える。
27	各自の問題意識を生かした研究発表。質疑応答。 各時間 1～2名を予定。
28	同前
29	同前
30	後期の総括と後期末レポートについての注意。

科目名	原典研究Ⅴ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	西岡 陽子				
クラス名					

授業目的と到達目標

『隔メイ(くさかんむりに冥)記』(かくめいき)を読解することを通して、古文・漢文の基礎的な読解力を付け、近世初頭の京都における芸術、芸能に対する理解を深める。|||

授業概要

対面授業。『隔メイ(くさかんむりに冥)記』は、近世初頭の京都において、鹿苑寺通称金閣寺の住職であった鳳林承章の漢文日記である。彼の日記には、茶道・華道・演劇・音楽・絵画・陶芸など寛永文化を構成した多様な芸術の動向が記され、これを読解することを通して、近世初頭の芸術、芸能の動向を具体的に学ぶ。そのために、まずは、古典や漢文読解の力を養成することからはじめ、各自の担当を決めて輪読形式で進めて行く。|||

受講上の注意

普段なじみのないテキストを読むことになるので、予習復習は欠かせない。|一見取りつきにくい、基本的知識さえ習得すれば読めるようになるので努力をしてほしい。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
発表	50
授業への参加の姿勢	25
レポート	25

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
テキスト・人名辞典、用語辞典はコピーを配布。漢和辞典必携。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の目的、『隔メイ記』の概説、単位取得の条件など授業についての導入。		
2	筆者鳳林承章と金閣寺についての概説。用語事典・人名辞典の活用の仕方概説。		
3	寛永文化について概説。近世初頭の京都の歴史的社会的状況の概説。		
4	テキスト読解の基礎知識の講義および演習。本文読解に必要な基礎的知識を講義しながら読み進む。また合わせて漢文読み下しの方法など の演習。今年度は寛永 19 年 7 月 1 日から。		
5	テキスト読解の基礎知識の講義＝本文読解に必要な基礎的知識を講義しながら読み進む。 重点テーマ＝和製漢文の理解と古語		
6	テキスト読解の基礎知識の講義＝本文読解に必要な基礎的知識を講義しながら読み進む。 重点テーマ＝古文の敬語		

7	事前に担当を決めて発表形式で読解の演習。最初は各自1日分ずつを担当。レジュメを用意すること。 重点テーマ＝京都という都市の理解
8	同前。重点テーマ＝禅宗寺院の生活
9	同前。重点テーマ＝鳳林承章をめぐる人々
10	同前。重点テーマ＝贈答の慣習
11	同前。重点テーマ＝茶道
12	金閣寺、相国寺、北野天満宮、平野神社など『隔?記』の舞台、あるいは頻出する関係寺社の見学を通して 歴史地理的感覚を養う。
13	各自の発表の続き。重点テーマ日本における寺院と神社。
14	同前。
15	前期授業の総括と前期レポートについての注意
16	前期授業内容の確認。
17	前期レポートの講評。場合によれば追加訂正等。
18	前期に引き続いて、各自の発表。徐々に担当範囲を増やしていく。重点テーマ＝禅宗寺院の生活
19	同前。重点テーマ＝鹿苑寺をめぐる禅宗寺院
20	同前。重点テーマ＝他宗派の寺院との交流
21	同前。重点テーマ＝禅宗寺院の生活
22	同前。重点テーマ＝江戸幕府の京都支配と禅宗寺院
23	同前。重点テーマ＝鹿苑寺門前の人々
24	同前。重点テーマ＝鹿苑寺の年中行事
25	同前。重点テーマ＝鳳林承章の学問と芸能
26	鳳林承章をめぐる芸術(書画・文学・工芸・芸能など)を考える。
27	各自の問題意識を生かした研究発表。質疑応答。 各時間 1～2名を予定。
28	同前
29	同前
30	後期の総括と後期末レポートについての注意。

科目名	工芸・デザイン学特論		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	講義		
教員名	瀧本 雅志					
クラス名						
授業目的と到達目標						
デザインは、いまや様々な領域におよぶ活動へと拡大・変質している。当授業では、そうした様々なデザインの営みの諸相を広く見渡し、その各々の活動の意味や他のデザイン活動との関係性への理解を深めることを目的とする。そのなかで、工芸という営為がこれからどのような可能性を持ちうるかへの問題意識を高めること、そしてデザインという活動全体への現代的な眼差しを涵養することが、目標となる。						
授業概要						
【対面授業】最初に、工芸とは何かについて、日本の近代化の過程を振り返りながら考察する。また、それがデザインという問題意識と、いかなる関係を結んできたかを、近代工芸運動を概観しつつ考える。続けて、様々なデザインの分野を取り上げ、各々の注目すべき事例を中心に検討してゆく。「デザイン史」の授業とは異なり、歴史を体系的に辿る以上に、工芸やデザインの感覚や思考をアクチュアルに触発する作品や現象の主題的な分析に重点を置く。						
受講上の注意						
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
期末テスト(筆記)				80		
平常点				20		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				

教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	授業の中で適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「イントロダクション: 工芸とは何か?」:「工芸」という概念が、いかにして形成されてきたかを、明治期の日本の近代化の黎明期に遡って検討する。その検討の過程で、「工芸」と「美術」と「技術」の違いという重要な問題についても、歴史的に考えてゆく。		
2	「〈日本的なるもの〉と工芸・デザイン」:〈日本的なるもの〉への自意識は、明治以前には基本的になかったはずだ。では、それはいつどのような状況で登場したし、その初期には何が〈日本的〉とアピールされ、工芸はいかなる役回りを演じたのか? また、〈日本的な〉工芸・デザインとはどのようなものと見なされ、それが時代を通じて不変なのかどうかも考察の対象とする。		
3	「ヨーロッパにおける近代工芸運動」:近代における工芸の改革運動とは、どのような問題意識を持ち、どのような成果を出しながら、進展していったか? ウィリアム・モリスからパウハウスまでを一気に概観することで、近代工芸運動に働く方向性のいくつかを明確化してゆく。		

4	「日本における近代工芸運動」: 柳宗悦の民芸運動について検討する。彼の唱えた「用の美」の思想や、彼と協力関係にあった工芸家たちや彼らの認めた無名の工人たちの工芸品を振り返るとともに、日本民藝館の活動にも注目してゆく。
5	「近代装飾と近代絵画」: 近代絵画が平面イメージ化し、それが壁面装飾化＝装飾壁面化してゆく諸例に注目する。マネ、モネ、ゴッホ、ナビ派、クリムト、マチス、ボロック等々。また、そうした絵画の傾向に関わる理論として、ミシェル・フーコーやクレメント・グリーンバーグの言説も参考にする。
6	「近代建築の平面と工芸」: 近代建築に特徴的なベクトルのひとつは、水平面と垂直面による平面的構成にあった。その顕著な例として、ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエのいくつかの作品に注目する。また、そうした発想を、電灯や椅子から建築までに貫いて用いたヘリット・リートフェルトの作品を顧みる。
7	「ファッションと空間デザイン」: 衣服が単に着るためのものではなく、ファッションとして市民へ開かれてゆくのは、主にフランス革命以降である。だが、市民はすぐさまファッションナブルに変貌しえた訳ではなかった。それには、ファッションが夢のイメージとして上映される空間が、大きな意味を果たしていた。パッサージュ。そして初期のデパートの空間デザインについて、振り返る。
8	「流行とブランドのデザイン」: 19 世紀半ばにシャルル・フレデリック・ウォルトの発明した、オート・クチュールという装置の画期性について見てゆく。またあわせて、ウォルト以前の。ファッションが必ずしも衣服のデザインのみを指さなかった時代について確認する。そのなかで、ファッションにおいて明白に存在する建築的次元について注目する。
9	「洋服を超える〈ファッション〉デザイン」: 60 年代になると。トータルなライフスタイルの提言や実践として、ファッションが加速し始める。言い換えるなら、〈ファッション〉は、洋服だけの問題ではなく、他のファッションナブルなデザインと密接に連携することになる。60 年代ロンドンのファッション・シーン、そしてピエール・カルダンのデザイン戦略を検討する。
10	「ミュージシャンのファッション・デザイン」: 第 9 回目とほぼ同じ問題意識から、今回は、特にポップミュージック・シーンのなかで発信されてきた広義の〈ファッション〉デザインについて、時代を振り返り概観してゆく。モッズ、パンク、ニューウェーブ、グラム、ニューロマンティック、グランジなどを中心に講義する、
11	「ファッションと現代建築のデザイン」: 2000 年代に入ると、表参道には高級ブランドのファッションビルが次々と建ち始める。その設計は、各々が気鋭の現代建築家たちによるもので、表参道は以降、現代建築のショーケースとなる。また、2006～7 年に LA の現代美術館で開催された「Skin + Bones」展では、ファッションと建築の交錯する諸例が示された。以上 2 つの方向から、両デザインの複合を検証する。
12	「グラフィックデザインと都市・建築」: 建物や都市のペーパー上でのデザインに新たな建築の可能性を見出した、アーキグラムをはじめとする 60 年代のアンビルトのデザインの可能性を探る。ま

	た、広告看板や、壁面への巨大なグラフィックが、建築や都市の空間性を大きく変容させる力について、ヴェンチュエリの言説やスーパーグラフィックスの実践を考察する。
13	「ポストモダンデザイン」: 70 年代後半以降の世界のポストモダン建築にくわえて、日本のバブル期のそれについても具体例を見てゆく。チャールズ・ジェンクスの建築思想や、ジャン・フランソワ・リオタールのポストモダン概念も参照する。
14	「ミニマルデザインと建築」: 最小限のデザインについて、批判的に考える。ミース・ファン・デル・ローエ、ミニマリズムのアートのほか、90 年代以降のポスト・ミニマル建築の作品を分析し、現代におけるミニマルデザインの射程についても見定めてゆく。
15	「グローバルスタイルのデザイン」: グローバリゼーションの時代に、クールで経済的で市民に開かれた先端技術の建築イメージを提示しているレンゾ・ピアノ、ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースの建築デザインを検討してゆく。
16	「構造デザイン」: 構造は、建築において必ずしも黒子ではない。構造が優れたデザインとなって明示的に現れた諸例を紹介する。とりわけ、構造上の工夫や複雑な構造計算を要する近現代建築のある種のタイプでは、すぐれた構造家はスター的存在感を発揮してきた。ピーター・ライス、佐々木睦朗、セシル・バルモンドらの作例を見ながら、構造デザインの美学を検討する。
17	「都市デザイン」: 過去の都市デザインの中から、とりわけ重要と思われる事例を再考する。オスマンのパリ改造やグランプロジェなどの実現例はもちろん、ル・コルビュジエ、レム・コールハース等の過剰な都市デザインの思想も、考察の材料とする。
18	「ランドスケープデザイン」: 都市の公共空間デザインや造園デザインと重なりつつも、それらとは微妙に異なるランドスケープデザインの可能性の中心を見据える。それは、ランドスケープ(=風景)という概念の発生やその変遷を顧みる試みの意義も持つ。建物とランドスケープのデザインが一体連続化した現代の諸例についても見てゆく。
19	「日本のインテリアデザイン」: 近代化以降の日本の住環境をめぐる歴史を概観する。室内空間のデザインにくわえて、家具や環境のデザインも考察する。また、剣持勇や倉俣史朗といったデザイナーについても概説する。
20	「タイポグラフィのデザイン」: 産業化時代、バウハウス、国際タイポグラフィック様式、ニューヨーク派、ニューウェーブ派、コンピュータ作成のタイポグラフィについて、時代順に概観してゆく。特に、国際タイポグラフィック様式にスポットをあてる。
21	「サウンドデザインと空間デザイン」: 音楽は、音により空間を変容させ、新たな空間性を創造してゆく行為だという意識が、ある時期以降活性化しだす。現代音楽における空間デザイン、またポップミュージックに浮上した空間デザインの先駆的例について、体験する機会を設ける。後者については、特に奇オフィル・スペクターに注目する。
22	「サウンドデザインとコンセプトアルバム」: 前回に引き続き、今回は 60 年代のポップミュージックにおけるサウンドデザインの意識の高まりを検討してゆく。ビーチボーイズ、ビートルズ、そし

	てフィル・スペクターの回帰について検討しながら、コンセプトアルバムというアイデアや、彼らのサウンドデザインのその後への影響について探っていく。
23	「映画のタイトルデザイン」: 映画の冒頭に作品名や人名等とともに登場するタイトルのいくつかは、本の表紙以上に作品の印象を最初に効果的に告げる優れたデザイン性を見せる。ソウル・バス、カイル・クーパー等による魅力的な作品例に目を向ける。
24	「TV ゲームとブックデザイン」: TV ゲームが新しいメディアとして大きな可能性を感じさせた時代があった。パソコンやインターネットが普及する前夜とも言えるべき、80年代後半から90年代前半にかけてだ。この時期、そうした可能性をいかに本にして告げるかというデザイン目標を持った本が登場した。それらを紹介しつつ、新旧メディアの動的な関係性についてケーススタディする。
25	「展覧会とアートのスペースのデザイン」: 美術館と作品の関係は歴史的に一様ではないし、展示のデザインも時代や美術館や展覧会のタイプによって異なる。それらのデザインをいくつかに大別しながら、各々の代表例を見ていく。
26	「CI のデザイン」: 会社というそのままでは目には見えない組織のイメージを、どう戦略的に統一化して社会へ訴求していくか。そうした問題をデザインによって解決する手法について考えていく。高級ブランドのロゴのデザインの高級性についても検討する。
27	「情報デザイン」: いかに情報をわかりやすく効果的に伝えるかという意味で、ますます情報デザインは、われわれに必須のリテラシーと化している。情報デザインという考え方がいかに登場し、どのような有効性を持つかを、体系的に確認していく。オットー・ノイラート、エドワード・タフティ、アフォーダンスなどにも注目する。
28	「キャリアデザイン」: こうした言葉があるからには、職業人生は、いまやデザインするものとも考えられているようだ。しかし、キャリアをデザインすることとは、就職活動上や実際の仕事上やキャリアアップ戦略上の能力アップとでは、どう異なるのか？ キャリア「デザイン」という言説の作動する状況やその功罪について、批判的に分析する。
29	「コミュニティデザイン／ソーシャル・デザイン」: 社会や地域は、放っておいてもプラスの方向には向かわないかもしれない。計画でも単なる実践行為でもなく、コミュニティや社会をデザインするとはどういうことか？ そのポジティブな諸例を参照していく。
30	「まとめ」: これまでの授業を振り返り、総括や重要点の確認を行う。また、これまでに言及していないが重要なトピックについて、受講する学生の関心も踏まえながら、補足的にいくつか説明する。

科目名	工芸・デザイン学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標

デザインは、いまや様々な領域におよぶ活動へと拡大・変質している。当授業では、そうした様々なデザインの営みの諸相を広く見渡し、その各々の活動の意味や他のデザイン活動との関係性への理解を深めることを目的とする。そのなかで、工芸という営為がこれからどのような可能性を持ちうるかへの問題意識を高めること、そしてデザインという活動全体への現代的な眼差しを涵養することが、目標となる。

授業概要

最初に、工芸とは何かについて、日本の近代化の過程を振り返りながら考察する。また、それがデザインという問題意識と、いかなる関係を結んできたかを、近代工芸運動を概観しつつ考える。続けて、様々なデザインの分野を取り上げ、各々の注目すべき事例を中心に検討してゆく。「デザイン史」の授業とは異なり、歴史を体系的に辿る以上に、工芸やデザインの感覚や思考をアクチュアルに触発する作品や現象の主題的な分析に重点を置く。

受講上の注意

明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
期末テスト(筆記)	80
平常点	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	授業の中で適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「イントロダクション: 工芸とは何か?」: 「工芸」という概念が、いかにして形成されてきたかを、明治期の日本の近代化の黎明期に遡って検討する。その検討の過程で、「工芸」と「美術」と「技術」の違いという重要な問題についても、歴史的に考えてゆく。		
2	「〈日本的なるもの〉と工芸・デザイン」: 〈日本的なるもの〉への自意識は、明治以前には基本的になかったはずだ。では、それはいつどのような状況で登場し、その初期には何が〈日本的〉とアピールされ、工芸はいかなる役回りを演じたのか? また、〈日本的な〉工芸・デザインとはどのようなものと見なされ、それが時代を通じて不変なのかどうかも考察の対象とする。		
3	「ヨーロッパにおける近代工芸運動」: 近代における工芸の改革運動とは、どのような問題意識を持ち、どのような成果を出しながら、進んでいったか? ウィリアム・モリスからパウハウスまでを一気に概観することで、近代工芸運動に働く方向性のいくつかを明確化してゆく。		

4	「日本における近代工芸運動」: 柳宗悦の民芸運動について検討する。彼の唱えた「用の美」の思想や、彼と協力関係にあった工芸家たちや彼らの認めた無名の工人たちの工芸品を振り返るとともに、日本民藝館の活動にも注目してゆく。
5	「近代装飾と近代絵画」: 近代絵画が平面イメージ化し、それが壁面装飾化＝装飾壁面化してゆく諸例に注目する。マネ、モネ、ゴッホ、ナビ派、クリムト、マチス、ポロック等々。また、そうした絵画の傾向に関わる理論として、ミシェル・フーコーやクレメント・グリーンバークの言説も参考にする。
6	「近代建築の平面と工芸」: 近代建築に特徴的なベクトルのひとつは、水平面と垂直面による平面的構成にあった。その顕著な例として、ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエのいくつかの作品に注目する。また、そうした発想を、電灯や椅子から建築までに貫いて用いたヘリット・リートフェルトの作品を顧みる。
7	「ファッションと空間デザイン」: 衣服が単に着るためのものではなく、ファッションとして市民へ開かれてゆくのは、主にフランス革命以降である。だが、市民はすぐさまファッションナブルに変貌しえた訳ではなかった。それには、ファッションが夢のイメージとして上映される空間が、大きな意味を果たしていた。パッサージュ。そして初期のデパートの空間デザインについて、振り返る。
8	「流行とブランドのデザイン」: 19 世紀半ばにシャルル・フレデリック・ウォルトの発明した、オート・クチュールという装置の画期性について見てゆく。またあわせて、ウォルト以前の、ファッションが必ずしも衣服のデザインのみを指さなかった時代について確認する。そのなかで、ファッションにおいて明白に存在する建築的次元について注目する。
9	「洋服を超える〈ファッション〉デザイン」: 60 年代になると、トータルなライフスタイルの提言や実践として、ファッションが加速し始める。言い換えるなら、〈ファッション〉は、洋服だけの問題ではなく、他のファッションナブルなデザインと密接に連携することになる。60 年代ロンドンのファッション・シーン、そしてピエール・カルダンのデザイン戦略を検討する。
10	「ミュージシャンのファッション・デザイン」: 第 9 回目とほぼ同じ問題意識から、今回は、特にポップミュージック・シーンのなかで発信されてきた広義の〈ファッション〉デザインについて、時代を振り返り概観してゆく。モッズ、パンク、ニューウェーブ、グラム、ニューロマンティック、グランジなどを中心に講義する。
11	「ファッションと現代建築のデザイン」: 2000 年代に入ると、表参道には高級ブランドのファッションビルが次々と建ち始める。その設計は、各々が気鋭の現代建築家たちによるもので、表参道は以降、現代建築のショーケースとなる。また、2006～7 年に LA の現代美術館で開催された「Skin + Bones」展では、ファッションと建築の交錯する諸例が示された。以上 2 つの方向から、両デザインの複合を検証する。
12	「グラフィックデザインと都市・建築」: 建物や都市のペーパー上でのデザインに新たな建築の可能性を見出した、アーキグラムをはじめとする 60 年代のアンビルトのデザインの可能性を探る。ま

	た、広告看板や、壁面への巨大なグラフィックが、建築や都市の空間性を大きく 変容させる力について、ヴェンチューリの言説やスーパーグラフィックスの実践を考察する。
13	「ポストモダンデザイン」:70 年代後半以降の世界のポストモダン建築にくわえて、日本のバブル期のそれについても具体例を見てゆく。 チャールズ・ジェンクスの建築思想や、ジャン・フランソワ・リオタールのポストモダン概念も参照する。
14	「ミニマルデザインと建築」:最小限のデザインについて、批判的に考える。ミース・ファン・デル・ローエ、ミニマルズムのアートのほ か、90 年代以降のポスト・ミニマル建築の作品を分析し、現代におけるミニマルデザインの射程についても見定めてゆく。
15	「グローバルスタイルのデザイン」:グローバリゼーションの時代に、クールで経済的で市民に開かれた先端技術の建築イメージを提示し ているレンゾ・ピアノ、ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースの建築デザインを検討してゆく。
16	「構造デザイン」:構造は、建築において必ずしも黒子ではない。構造が優れたデザインとなって明示的に現れた諸例を紹介する。とりわ け、構造上の工夫や複雑な構造計算を要する近現代建築のある種のタイプでは、すぐれた構造家はスター的存在感を発揮してきた。ピー ター・ライス、佐々木睦朗、セシル・バルモンドらの作例を見ながら、構造デザインの美学を検討する。
17	「都市デザイン」:過去の都市デザインの中から、とりわけ重要と思われる事例を再考する。オスマンのパリ改造やグランプロジェなどの 実現例はもちろん、ル・コルビュジエ、レム・コールハース等の過剰な都市デザインの思想も、考察の材料とする。
18	「ランドスケープデザイン」:都市の公共空間デザインや造園デザインと重なりつつも、それらとは微妙に異なるランドスケープデザイン の可能性の中心を見据える。それは、ランドスケープ(=風景)という概念の発生やその変遷を顧みる試みの意義も持つ。建物とランドス ケープのデザインが一体連続化した現代の諸例についても見てゆく。
19	「日本のインテリアデザイン」:近代化以降の日本の住環境をめぐる歴史を概観する。室内空間のデザインにくわえて、家具や環境のデザ インも考察する。また、剣持勇や倉俣史朗といったデザイナーについても概説する。
20	「タイポグラフィのデザイン」:産業化時代、バウハウス、国際タイポグラフィック様式、ニューヨーク派、ニューウェーブ派、コン ピュータ作成のタイポラフィについて、時代順に概観してゆく。特に、国際タイポグラフィック様式にスポットをあてる。
21	「サウンドデザインと空間デザイン」 :音楽は、音により空間を変容させ、新たな空間性を創造してゆく行為だという意識が、ある時期以 降活性化しだす。現代音楽における空間デザイン、またポップミュージックに浮上した空間デザインの先駆的例について、体験する機会を 設ける。後者については、特に奇オフィル・スペクターに注目する。
22	「サウンドデザインとコンセプチュアル・アルバム」:前回に引き続き、今回は 60 年代のポップミュージックにおけるサウンドデザインの 意識の高まりを検討してゆく。ビーチボーイズ、ビートルズ、そし

	てフィル・スペクターの回帰について検討しながら、コンセプトアルバムというアイデアや、彼らのサウンドデザインのその後への影響について探っていく。
23	「映画のタイトルデザイン」: 映画の冒頭に作品名や人名等とともに登場するタイトルのいくつかは、本の表紙以上に作品の印象を最初に効果的に告げる優れたデザイン性を見せる。ソウル・バス、カイル・クーパー等による魅力的な作品例に目を向ける。
24	「TV ゲームとブックデザイン」: TV ゲームが新しいメディアとして大きな可能性を感じさせた時代があった。パソコンやインターネットが普及する前夜とも言えるべき、80年代後半から90年代前半にかけてだ。この時期、そうした可能性をいかに本にして告げるかというデザイン目標を持った本が登場した。それらを紹介しつつ、新旧メディアの動的な関係性についてケーススタディする。
25	「展覧会とアートのスペースのデザイン」: 美術館と作品の関係は歴史的に一様ではないし、展示のデザインも時代や美術館や展覧会のタイプによって異なる。それらのデザインをいくつかに大別しながら、各々の代表例を見ていく。
26	「CI のデザイン」: 会社というそのままでは目には見えない組織のイメージを、どう戦略的に統一化して社会へ訴求していくか。そうした問題をデザインによって解決する手法について考えていく。高級ブランドのロゴのデザインの高級性についても検討する。
27	「情報デザイン」: いかに情報をわかりやすく効果的に伝えるかという意味で、ますます情報デザインは、われわれに必須のリテラシーと化している。情報デザインという考え方がいかに登場し、どのような有効性を持つかを、体系的に確認していく。オットー・ノイラート、エドワード・タフティ、アフォーダンスなどにも注目する。
28	「キャリアデザイン」: こうした言葉があるからには、職業人生は、いまやデザインするものとも考えられているようだ。しかし、キャリアをデザインすることとは、就職活動上や実際の仕事上やキャリアアップ戦略上の能力アップとは、どう異なるのか？ キャリア「デザイン」という言説の作動する状況やその功罪について、批判的に分析する。
29	「コミュニティデザイン／ソーシャル・デザイン」: 社会や地域は、放っておいてもプラスの方向には向かわないかもしれない。計画でも単なる実践行為でもなく、コミュニティや社会をデザインするとはどういうことか？ そのポジティブな諸例を参照していく。
30	「まとめ」: これまでの授業を振り返り、総括や重要点の確認を行う。また、これまでに言及していないが重要なトピックについて、受講する学生の関心も踏まえながら、補足的にいくつか説明する。

科目名	工芸特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	上田 順平				
クラス名					

授業目的と到達目標

百均、茶道、縄文土器、ファインセラミックス、やきものは生活と芸術を繋ぐ存在であり、時代や環境を映す鏡でもあります。また、焼成という人為的な行為によって成立する物質であり、化学の側面も併せ持ちます。この講義では、やきものを通して背景にある文化、歴史への認識を深め、絶えず変化し続ける物質と向き合いながら制作し、物質について再考察します。そして、受講生が新たな視点を獲得し、自身の研究を深める事を目指します。

授業概要

対面授業|前期:陶磁器の制作プロセスである手びねり技法と板作り技法の実践により、粘土の可塑性、含有水分量に則したアプローチを体感します。また、直接物質に触れることにより生まれる形体、構想を認識します。|後期:陶磁器の制作プロセスであるくり抜き技法の実践により、自由度の高い造形を行います。最終制作では、これまでの技法を用いて自身の研究と関連する作品を制作し、客観的な視点と研究の幅を拡張します。

受講上の注意

生活、芸術におけるやきものへの関心を深め、美術館、博物館等へ研修に行くこと。窯づめ窯たきに合わせて、受講生全員おの制作進行を合わせなければならぬ為、全ての回に出席すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
制作作品	70
プレゼンテーション	20
提出物	10

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要、陶磁器制作プロセス説明 講義:上田順平研究プレゼンテーション 1(陶磁史と自作)		
2	講義:上田順平研究プレゼンテーション 2(メキシコ研修と自作)		
3	受講生による研究プレゼンテーション 1(人数により回数変更有り)		
4	受講生による研究プレゼンテーション 2(人数により回数変更有り)		
5	* 対面 制作:「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」 ① 手びねり成形		
6	* 対面 ② 手びねり成形終了、形体調整		
7	* 対面 ③ 口部、底部仕上げ→乾燥		
8	* 対面 制作:「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」 ① タタラ板を利用した粘土板制作、比率考察		

9	* 対面 ② 凹凸加工、型紙制作
10	* 対面 ③ 粘土板組み立て
11	* 対面 ④ 仕上げ→乾燥 ・「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
12	* 対面 ・「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」に加飾、施釉 ・「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
13	* 対面 ・「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」に施釉
14	* 対面 ・「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」焼成本焼き窯詰め→焼成
15	* 対面 講評会 1
16	講義:「現代美術と現代陶芸？」
17	* 対面 制作:「開口部のある造形」 ① 成形
18	* 対面 ② 内部くり抜き→接合
19	* 対面 ③ 形体調整
20	* 対面 ④ 口部、底部仕上げ→乾燥
21	* 対面 制作:「自身の研究と関連した制作」 ① 成形1
22	* 対面 ② 成形2
23	* 対面 ③ 成形3
24	* 対面 ④ 成形4
25	* 対面 ・仕上げ→乾燥 ・素焼き窯詰め→焼成
26	* 対面 ・加飾
27	* 対面 ・加飾
28	* 対面 ・施釉
29	* 対面 ・施釉 ・本焼き窯詰め→焼成
30	* 対面 講評会 2

科目名	工芸特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	上田 順平				
クラス名					

授業目的と到達目標

百均、茶道、縄文土器、ファインセラミックス、やきものは生活と芸術を繋ぐ存在であり、時代や環境を映す鏡でもあります。また、焼成という人為的な行為によって成立する物質であり、化学の側面も併せ持ちます。この講義では、やきものを通して背景にある文化、歴史への認識を深め、絶えず変化し続ける物質と向き合いながら制作し、物質について再考察します。そして、受講生が新たな視点を獲得し、自身の研究を深める事を目指します。

授業概要

対面授業 前期:陶磁器の制作プロセスである手びねり技法と板作り技法の実践により、粘土の可塑性、含有水分量に則したアプローチを体感します。また、直接物質に触れることにより生まれる形体、構想を認識します。後期:陶磁器の制作プロセスであるくり抜き技法の実践により、自由度の高い造形を行います。最終制作では、これまでの技法を用いて自身の研究と関連する作品を制作し、客観的な視点と研究の幅を拡張します。

受講上の注意

生活、芸術におけるやきものへの関心を深め、美術館、博物館等へ研修に行くこと。窯づめ窯たきに合わせて、受講生全員おの制作進行を合わせなければならぬ為、全ての回に出席すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
制作作品	70
プレゼンテーション	20
提出物	10

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業概要、陶磁器制作プロセス説明 講義:上田順平研究プレゼンテーション 1(陶磁史と自作)		
2	講義:上田順平研究プレゼンテーション 2(メキシコ研修と自作)		
3	受講生による研究プレゼンテーション 1(人数により回数変更有り)		
4	受講生による研究プレゼンテーション 2(人数により回数変更有り)		
5	制作:「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」 ① 手びねり成形		
6	② 手びねり成形終了、形体調整		
7	③ 口部、底部仕上げ→乾燥		
8	制作:「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」 ① タタラ板を利用した粘土板制作、比率考察		

9	② 凹凸加工、型紙制作
10	③ 粘土板組み立て
11	④ 仕上げ→乾燥 ・「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
12	・「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」に加飾、施釉 ・「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
13	・「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」に施釉
14	・「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」焼成 本焼き窯詰め→焼成
15	講評会 1
16	講義:「現代美術と現代陶芸？」
17	制作:「開口部のある造形」 ① 成形
18	② 内部くり抜き→接合
19	③ 形体調整
20	④ 口部、底部仕上げ→乾燥
21	制作:「自身の研究と関連した制作」 ① 成形1
22	② 成形2
23	③ 成形3
24	④ 成形4
25	・仕上げ→乾燥 ・素焼き窯詰め→焼成
26	・加飾
27	・加飾
28	・施釉
29	・施釉 ・本焼き窯詰め→焼成
30	講評会 2

科目名	工芸特殊研究Ⅱ		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	長谷川 政弘					
クラス名						
授業目的と到達目標						
鋳金、鍛金、彫金の基礎技術に触れ金属工芸についての基礎知識と基礎技術の習得を目的とする。 金属工芸で使われる多様な金属の特性を知る。						
授業概要						
対面授業 異なった技法と金属素材で前期と後期で作品を1点ずつ制作します。 前期(彫金)真鍮板を素材に実用性のある透かし(糸鋸による)作品を制作します。 後期(鋳金)アルミニウムを素材にCO2ガス型鋳造法による用途を持った鋳物作品を制作します。						
受講上の注意						
金属工芸では制作にあたって専門機具や薬品、火気等を使用します。 必ず作業に適した服装を着用して下さい。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
授業に取り組む姿勢				40		
制作作品				60		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1	美術鑄物の手法		
出版社名	アグネ技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名2	金工基礎実習		
出版社名	丸善株式会社	著者名	佐々田美雪/長谷川政弘
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
http://masaab.sakura.ne.jp			
特記事項			
教員実務経験			
金属造形作家が幅広い視野で指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	金属工芸概要説明「真鍮透かし作品」実制作画像を見ながら課題説明		
2	透かしデザインの作成		
3	展開図の作成 板取り		
4	本体の透かし		
5	本体の透かし		
6	本体の透かし		
7	本体透かし ヤスリ、ペーパーがけ		
8	本体透かし ペーパーがけ		
9	機械による曲げ加工		
10	パーツ切り出し		

11	パーツの透かし
12	パーツの透かし
13	本体とパーツの接合 ハンダ付け
14	全体の仕上げ ペーパーがけ 鏡面研磨
15	合評
16	アルミニウム鑄造工程の説明 「アルミ鑄造作品」の画像を見ながら課題説明
17	スケッチによるアイデアチェック
18	油土によるモデリング
19	油土によるモデリング 石膏取り(雌型)
20	石膏取り(雌型)
21	石膏原型の注型
22	石膏原型仕上げ
23	鑄型づくり(CO2 型)
24	鑄型づくり(CO2 型)
25	アルミニウムの鑄込み
26	湯道切断 ヤスリがけ
27	仕上げ
28	仕上げ
29	仕上げ 磨き
30	合評

科目名	工芸特殊研究Ⅱ		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	長谷川 政弘					
クラス名						
授業目的と到達目標						
鋳金、鍛金、彫金の基礎技術に触れ金属工芸についての基礎知識と基礎技術の習得を目的とする。 金属工芸で使われる多様な金属の特性を知る。						
授業概要						
対面授業 異なった技法と金属素材で前期と後期で作品を1点ずつ制作します。 前期(彫金)真鍮板を素材に実用性のある透かし(糸鋸による)作品を制作します。 後期(鋳金)アルミニウムを素材にCO2ガス型鋳造法による用途を持った鋳物作品を制作します。						
受講上の注意						
金属工芸では制作にあたって専門機具や薬品、火気等を使用します。 必ず作業に適した服装を着用して下さい。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
授業に取り組む姿勢				40		
制作作品				60		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
http://masaab.sakura.ne.jp			
特記事項			
教員実務経験			
金属造形作家が幅広い視野で指導します。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	金属工芸概要説明 「真鍮透かし作品」実制作画像を見ながら課題説明		
2	透かしデザインの作成		
3	展開図の作成 板取り		
4	本体の透かし		
5	本体の透かし		
6	本体の透かし		
7	本体透かし ヤスリ、ペーパーがけ		
8	本体透かし ペーパーがけ		
9	機械による曲げ加工		
10	パーツ切り出し		

11	パーツの透かし
12	パーツの透かし
13	本体とパーツの接合 ハンダ付け
14	全体の仕上げ ペーパーがけ 鏡面研磨
15	合評
16	アルミニウム鑄造工程の説明 「アルミ鑄造作品」の画像を見ながら課題説明
17	スケッチによるアイデアチェック
18	油土によるモデリング
19	油土によるモデリング 石膏取り(雌型)
20	石膏取り(雌型)
21	石膏原型の注型
22	石膏原型仕上げ
23	鑄型づくり(CO2 型)
24	鑄型づくり(CO2 型)
25	アルミニウムの鑄込み
26	湯道切断 ヤスリがけ
27	仕上げ
28	仕上げ
29	仕上げ 磨き
30	合評

科目名	工芸特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					

授業目的と到達目標

染織には布を染める「染め」と、糸を織る「織り」がある。多くの場合、そのどちらにも染色の工程が介在しているが、染色は染めるだけでは成立しない。その対極にある染めない部分をいかに作るかが重要であり、これを防染と言う。防染を行うには様々なプロセス、素材や技法を必要とする。この授業では素材や技法との対話やプロセスで生まれる新しい染色表現の探求を目的とし、染色分野の理解と各自の専門分野への新しいアプローチの発見が目標である。

授業概要

【対面授業】防染に用いられる素材の代表であるろうと糊に注目し、それぞれの特性や技法などを演習によって体験し、各自の作品へ展開する。また、現代の染織作品や染織界の動向などについて適宜、資料などで紹介する。

受講上の注意

身の回りに溢れる染織品に目を向け、染織分野と人との密接さを感じて欲しい。新しいもの、古いもの、専門分野の枠にとらわれず美術館、ギャラリーへ出向き、視野を広げること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出課題・作品	70
プレゼンテーション	30

教科書情報

教科書1	適宜資料等を配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	染めを学ぶ		
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他
参考書名2	21世紀は工芸がおもしろい		
出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹編著
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{舘 正明 HP, https://tatemasaaki.jimdofree.com/ }			
特記事項			
教員実務経験			
染色による作品制作で活動する作家が担当する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業説明、担当教員によるプレゼンテーション		
2	受講生によるプレゼンテーション		
3	布を染める1 準備 布を張る 道具の使い方 地入れ		
4	布を染める2 染色 染料の特性を知る		
5	布を染める3 仕上げ 蒸し		
6	布を染める4 仕上げ 水元		
7	ろうによる防染を考える1 講義 ろう染めについて		
8	ろうによる防染を考える2 染色 染料の滲みを生かして		

9	ろうによる防染を考える3 防染 ろうを置く
10	ろうによる防染を考える4 仕上げ 脱ろうソーピング
11	技法研究1-1 バティック 試作・デザイン
12	技法研究1-2 バティック ろう置き
13	技法研究1-3 バティック 藍染め
14	技法研究1-4 バティック 仕上げ 脱ろうソーピング
15	合評
16	糊による防染を考える1 講義 型染めについて
17	糊による防染を考える2 糊置き
18	糊による防染を考える3 地入れ 技法研究2-1 筒描き 試作・デザイン
19	糊による防染を考える4 染色
20	糊による防染を考える5 染料定着、糊落し
21	技法研究2-2 筒描き 糊置き
22	技法研究2-3 筒描き 染色
23	技法研究2-4 筒描き 仕上げ 糊落し・水元
24	合評 防染による染色布の制作1 染色作品制作に向けての計画発表
25	防染による染色布の制作2 各自の計画により制作を進める
26	防染による染色布の制作3 各自の計画により制作を進める
27	防染による染色布の制作4 各自の計画により制作を進める
28	防染による染色布の制作5 各自の計画により制作を進める
29	防染による染色布の制作6 各自の計画により制作を進める
30	プレゼンテーション・合評

科目名	工芸特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					

授業目的と到達目標

染織には布を染める「染め」と、糸を織る「織り」がある。多くの場合、そのどちらにも染色の工程が介在しているが、染色は染めるだけでは成立しない。その対極にある染めない部分をいかに作るかが重要であり、これを防染と言う。防染を行うには様々なプロセス、素材や技法を必要とする。この授業では素材や技法との対話やプロセスで生まれる新しい染色表現の探求を目的とし、染色分野の理解と各自の専門分野への新しいアプローチの発見が目標である。

授業概要

【対面授業】防染に用いられる素材の代表である糊に注目し、それぞれの特性や技法などを演習によって体験し、各自の作品へ展開する。また、現代の染織作品や染織界の動向などについて適宜、資料などで紹介する。

受講上の注意

身の回りに溢れる染織品に目を向け、染織分野と人との密接さを感じて欲しい。新しいもの、古いもの、専門分野の枠にとらわれず美術館、ギャラリーへ出向き、視野を広げること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出課題・作品	70
プレゼンテーション	30

教科書情報

教科書1	適宜資料等を配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	染を学ぶ		
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他
参考書名2	21 世紀は工芸がおもしろい		
出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹編著
参考書名3	.		
出版社名		著者名	
参考書名4	.		
出版社名		著者名	
参考書名5	.		
出版社名		著者名	
参考 URL			
{舘 正明 HP,https://tatemasaaki.jimdofree.com/}			
特記事項			
教員実務経験			
染色による作品制作で活動する作家が担当する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	糊による防染を考える1 講義 型染めについて		
2	糊による防染を考える2 糊置き		
3	糊による防染を考える3 地入れ 技法研究2-1 筒描き 試作・デザイン		
4	糊による防染を考える4 染色		
5	糊による防染を考える5 染料定着、糊落し		
6	技法研究2-2 筒描き 糊置き		
7	技法研究2-3 筒描き 染色		
8	技法研究2-4 筒描き 仕上げ 糊落し・水元		
9	合評 防染による染色布の制作1 染色作品制作に向けての計画発表		

10	防染による染色布の制作 2 各自の計画により制作を進める
11	防染による染色布の制作 3 各自の計画により制作を進める
12	防染による染色布の制作 4 各自の計画により制作を進める
13	防染による染色布の制作 5 各自の計画により制作を進める
14	防染による染色布の制作 6 各自の計画により制作を進める
15	プレゼンテーション・合評

科目名	工芸特殊研究Ⅳ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	木下 良輔				
クラス名					

授業目的と到達目標

ガラス工芸についての基本理解とガラス技法の体験学習を通して、各学生の専門領域とガラスとの新たな関わりを模索する。幅広くガラスについての知識を得るとともに、グローバルな考えを持って活躍の場が広がることを期待する。

授業概要

対面授業|ガラス素材の歴史的変遷、技法、それに伴う機械や設備、道具と材料等々について、演習を通して理解する。各自の専門領域に基づく新たなガラスの提案を形にし、展示発表を行う。

受講上の注意

素材としてのガラスの特徴をとらえることに最大限の関心を持つこと。既成の概念と常識にとらわれずに、自分の感性でガラスを感じて欲しい。考察レポート作成のためのスケッチや記録撮影を随時行うこと。第 15 回の考察記録の提出とプレゼンテーション、及び、第 30 回の作品展示発表とプレゼンテーションは必修。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
考察プレゼンテーション	25
考察記録	25
提案作品	50

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	コールドワークテキスト		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名2	パート・ド・ヴェールの技法		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名3	世界ガラス工芸史		
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男
参考書名4	吹きガラステキスト		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス造形作家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス／年間授業説明		
2	教員と指導スタッフによるプレゼンテーション		
3	履修者のプレゼンテーション		
4	体験授業1 ホットワーク1		
5	体験授業2 ホットワーク2		
6	体験授業3 バーナーワーク		
7	体験授業4 キルンワーク1		
8	体験授業5 キルンワーク2		
9	体験授業6 キルンワーク3		
10	体験授業7 コールドワーク1		

11	体験授業8 コールドワーク2
12	体験授業9 コールドワーク3
13	作業予備日
14	作業予備日
15	前期講評会 / 課題提出日
16	後期課題説明
17	個別指導
18	後期課題プレゼンテーション1
19	後期課題プレゼンテーション2
20	制作
21	制作
22	制作
23	制作
24	中間発表
25	制作
26	制作
27	制作
28	制作
29	後期講評会
30	課題提出日

科目名	工芸特殊研究Ⅳ		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	木下 良輔					
クラス名						
授業目的と到達目標						
ガラス工芸についての基本理解とガラス技法の体験学習を通して、各学生の専門領域とガラスとの新たな関わりを模索する。幅広くガラスについての知識を得るとともに、グローバルな考えを持って活躍の場が広がることを期待する。						
授業概要						
対面授業 ガラス素材の歴史的変遷、技法、それに伴う機械や設備、道具と材料等々について、演習を通して理解する。各自の専門領域に基づく新たなガラスの提案を形にし、展示発表を行う。						
受講上の注意						
素材としてのガラスの特徴をとらえることに最大限の関心を持つこと。既成の概念と常識にとらわれずに、自分の感性でガラスを感じて欲しい。考察レポート作成のためのスケッチや記録撮影を随時行うこと。第 15 回の考察記録の提出とプレゼンテーション、及び、第 30 回の作品展示発表とプレゼンテーションは必修。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
考察プレゼンテーション				25		
考察記録				25		
提案作品				50		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				

参考書情報			
参考書名1	コールドワークテキスト		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名2	パート・ド・ヴェールの技法		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名3	世界ガラス工芸史		
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男
参考書名4	吹きガラステキスト		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス造形作家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス／年間授業説明		
2	教員と指導スタッフによるプレゼンテーション		
3	履修者のプレゼンテーション		
4	体験授業1 ホットワーク1		
5	体験授業2 ホットワーク2		
6	体験授業3 バーナーワーク		
7	体験授業4 キルンワーク1		
8	体験授業5 キルンワーク2		
9	体験授業6 キルンワーク3		
10	体験授業7 コールドワーク1		

11	体験授業8 コールドワーク2
12	体験授業9 コールドワーク3
13	作業予備日
14	作業予備日
15	前期講評会 / 課題提出日
16	後期課題説明
17	個別指導
18	後期課題プレゼンテーション1
19	後期課題プレゼンテーション2
20	制作
21	制作
22	制作
23	制作
24	中間発表
25	制作
26	制作
27	制作
28	制作
29	後期講評会
30	課題提出日

科目名	写真特殊研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標

【写真集を読む／作る】W・F・H・トルボット『自然の鉛筆』（1844-46）以来、無数の「写真集」が出版されてきました。写真集は今日では、「自立的な芸術形態」として捉えられるようになってきています。前期では、写真と言葉（キャプション／テキスト）の関係についていくつかのワークを重ねながら個々の考察を深めていきます。後期では、前期での経験を踏まえて、写真と言葉の組み合わせによって構成される写真集の制作（および制作レポートの作成）に取り組みます。

授業概要

前期は具体的にいくつかの写真集を手にとってもらいながら双方向的に授業を進めます。積極的にディスカッションに参加・介入してください。また、いくつかの具体的な課題を出しますので、自由な発想で取り組んでください。後期は、各人のテーマにしたがって、また各人の専門的なスキルも活かしながら写真集の制作を進めていきます。新しい試みに挑む機会にしてほしいと思います。

受講上の注意

写真や製本に関する専門的な知識やスキルを前提とする授業ではありません。課題には積極的に取り組んでください。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり（特に後期）、受講生の関心等に応じて変更する場合があります。

成績評価方法・基準

種別	割合（％）
平常点	40
授業内口頭発表	30
最終レポート	30

教科書情報

教科書1	授業中に適宜プリント等を配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	『自然の鉛筆』		
出版社名	赤々舎	著者名	W・H・F・トルボット／青山勝(訳)
参考書名2	The Photobook in Art and Society		
出版社名	Jovis	著者名	
参考書名3	さすらい		
出版社名	赤々舎	著者名	レイモン・ドウパルドン／青山勝(訳)
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画は暫定的なものであり、受講学生の関心等に応じて内容や順番を変更する場合がある。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション:写真集(Photobook)とは? 写真集をめぐる現在の状況とは?		
2	ケーススタディ① トルボット『自然の鉛筆』『写真集』の誕生		
3	ケーススタディ② アンリ・カルティエ＝ブレッソン『かすめ取られたイメージ』『自立的な芸術形態』としての「写真集」		
4	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)①		
5	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)②		
6	ケーススタディ③ 山沢栄子『遠近』、東松照明『太陽の鉛筆』他		

7	ケーススタディ④ レイモン・ドゥパルドン『さすらい』他
8	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する①
9	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する②
10	ケーススタディ⑤(内容は受講生の関心に応じて決定する)
11	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る①
12	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る②
13	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る③
14	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る④
15	前半の授業全体の振り返り(および夏期休暇中の課題の確認)
16	後半の授業にむけての再導入(各自の写真集制作の計画を確認する)
17	ケーススタディ⑥(内容は受講生の関心に応じて決定する)
18	ケーススタディ⑦(内容は受講生の関心に応じて決定する)
19	ケーススタディ⑧(内容は受講生の関心に応じて決定する)
20	中間発表・合評①
21	中間発表・合評②
22	中間発表・合評③
23	中間発表・合評④
24	写真集制作①
25	写真集制作②
26	写真集制作③
27	写真集制作④
28	制作レポート作成①
29	制作レポート作成②
30	全体の振り返りとまとめ

科目名	写真特殊研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標

【写真集を読む／作る】W・F・H・トルボット『自然の鉛筆』（1844-46）以来、無数の「写真集」が出版されてきました。写真集は今日では、「自立的な芸術形態」として捉えられるようになってきています。前期では、写真と言葉（キャプション／テキスト）の関係についていくつかのワークを重ねながら個々の考察を深めていきます。後期では、前期での経験を踏まえて、写真と言葉の組み合わせによって構成される写真集の制作（および制作レポートの作成）に取り組みます。

授業概要

前期は具体的にいくつかの写真集を手にとってもらいながら双方向的に授業を進めます。積極的にディスカッションに参加・介入してください。また、いくつかの具体的な課題を出しますので、自由な発想で取り組んでください。後期は、各人のテーマにしたがって、また各人の専門的なスキルも活かしながら写真集の制作を進めていきます。新しい試みに挑む機会にしてほしいと思います。

受講上の注意

写真や製本に関する専門的な知識やスキルを前提とする授業ではありません。課題には積極的に取り組んでください。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり（特に後期）、受講生の関心等に応じて変更する場合があります。

成績評価方法・基準

種別	割合（％）
平常点	40
授業内口頭発表	30
最終レポート	30

教科書情報

教科書1	授業中に適宜プリント等を配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	『自然の鉛筆』		
出版社名	赤々舎	著者名	W・H・F・トルボット／青山勝(訳)
参考書名2	The Photobook in Art and Society		
出版社名	Jovis	著者名	
参考書名3	さすらい		
出版社名	赤々舎	著者名	レイモン・ドウパルドン／青山勝(訳)
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業計画は暫定的なものであり、受講学生の関心等に応じて内容や順番を変更する場合がある。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクション:写真集(Photobook)とは? 写真集をめぐる現在の状況とは?		
2	ケーススタディ① トルボット『自然の鉛筆』『写真集』の誕生		
3	ケーススタディ② アンリ・カルティエ＝ブレッソン『かすめ取られたイメージ』『自立的な芸術形態』としての「写真集」		
4	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)①		
5	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)②		
6	ケーススタディ③ 山沢栄子『遠近』、東松照明『太陽の鉛筆』他		

7	ケーススタディ④ レイモン・ドゥパルドン『さすらい』他
8	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する①
9	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する②
10	ケーススタディ⑤(内容は受講生の関心に応じて決定する)
11	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る①
12	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る②
13	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る③
14	〈第3課題〉複数の写真を使ってシーケンスを作り、物語を語る④
15	前半の授業全体の振り返り(および夏期休暇中の課題の確認)
16	後半の授業にむけての再導入(各自の写真集制作の計画を確認する)
17	ケーススタディ⑥(内容は受講生の関心に応じて決定する)
18	ケーススタディ⑦(内容は受講生の関心に応じて決定する)
19	ケーススタディ⑧(内容は受講生の関心に応じて決定する)
20	中間発表・合評①
21	中間発表・合評②
22	中間発表・合評③
23	中間発表・合評④
24	写真集制作①
25	写真集制作②
26	写真集制作③
27	写真集制作④
28	制作レポート作成①
29	制作レポート作成②
30	全体の振り返りとまとめ

科目名	彫刻特殊研究 I		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	藤木 康成					
クラス名						
授業目的と到達目標						
多様な現代彫刻に至る彫刻史上の諸作品を取り上げ、造形性の数々を学び、知り、自身で制作を通じて研究、実践を深める。						
授業概要						
彫刻史上の代表的な作品について学んだ上、塊材をカービングによる(観察表現)求心的な作品試作へと展開する。 後期は自身で形態を練り上げ「生み出すフォルム」を制作。石膏成型の基礎を習得する。						
受講上の注意						
必要な材料は自身で準備する。実習で使う特殊な道具類は貸し出す。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
作品の完成度と取り組む姿勢。				80		
出席状況				20		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
長年にわたる彫刻作家としての経験や実践を活かし、彫刻制作への興味関心を深めてもらう。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション等		
2	塊材を用いた彫刻作品の鑑賞、解説(石彫、木彫)		
3	彫刻史(彫刻の誕生~中世)		
4	彫刻史(近現代)		
5	観察表現で使用するモデル(貝殻)のデッサン		
6	デッサンの完成		
7	塊材を造るための型枠造り。(石膏液を流し込むための)		
8	石膏の歴史、取り扱い方等の解説、及び石膏液の型枠への流し込み。		
9	彫りの開始(1)		
10	彫り(2)		
11	彫り(3)		
12	彫り(4)		

13	彫り(5)
14	彫り(6)
15	彫り(7)完成
16	複数の条件を満たす「生み出すフォルム」の課題説明。
17	ミニサイズのエスキース造り
18	実作品のスケールで鉛筆デッサン
19	芯棒作り。(垂木、麻ひも、はりがね等で)
20	粘土の準備
21	粘土付け(以下、肉付けと呼ぶ)(1)
22	肉付け(2)
23	肉付け(3)
24	肉付け(4)
25	肉付け(5)
26	肉付けの完成
27	石膏で凹型造り
28	粘土を凹型から抜き、凹型に石膏を張り込む
29	凹型を合体。
30	割り出しと修整。(完成)

科目名	彫刻特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					
授業目的と到達目標					
学部における基礎的な制作研究をもとに、実際に作品を設置する事をシュミレーションして、広い視野に立った研究を進める事を目的とする。					
授業概要					
対面授業。 都市空間の中に複数設置された彫刻作品及び作者について検証し、彫刻作品の本質的要素と公共性について考える。自身が作者となって設置する仮想作品を具体的にマケットとして提案する。					
受講上の注意					
日常の中の彫刻のある風景を意識する。街中の質の高い彫刻作品を見つけらる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
彫刻作品及びスケッチ			90		
授業に取り組む姿勢			10		
教科書情報					
教科書1	なし。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	なし。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
愛知県立芸術大学・広島市立大学・名古屋芸術大学・高等学校美術 公共団体等のモニュメント公募に参加。実作を神戸、岐阜、茨城、長野、土岐、美ヶ原等に設置。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	市街地に既に設置されている作品について作品及び作者について調査と論評。(その1)		
2	市街に既に設置されている作品についての調査。(その2)		
3	既に設置されている作品を任意に選択して作品についての検証。(その3)		
4	既存の公共作品についての検証と作者についての調査。(その4)		
5	市街地に設置される作品についての調査と検証。(その5)		
6	彫刻作品のコンセプトの検討。(その1)		
7	彫刻作品のコンセプトの検討。(その2)		
8	作品のコンセプトの検討。(その3)		
9	設置場所の風景のスケッチ(その1)		
10	彫刻設置(仮想)場所の風景スケッチ(その2)		
11	設置場所の風景スケッチ(その3)		

12	設置場所の周景のスケッチ。(その4)
13	設置彫刻作品のデッサンによる検討。(その1)
14	彫刻作品のデッサンによる検討。(その2)
15	設置作品のデッサンによる検討。(その3)
16	設置彫刻作品によるデッサンによる検討。(その4)
17	彫刻素材について研究。(その1)
18	公共作品においての素材の研究。(その2)
19	表現素材の多様性についての研究。(その3)
20	自作を設置した状況の風景スケッチ。(その1)
21	設置状況の風景スケッチ。(その2)
22	彫刻作品のマケット(縮小作品)の実制作。(その1)
23	彫刻作品の実制作。(その2)
24	縮小作品の彫刻制作。(その3)
25	設置作品のマケットの制作。(その4)
26	マケット作品の実制作。(その5)
27	設置作品の縮小モデルの制作。(その6)
28	設置作品の縮小モデルの完成。(その7)
29	彫刻の公共性と造形性についての検証。
30	仮想モニュメント制作の総括とデッサン及び彫刻作品の講評。

科目名	彫刻特殊研究Ⅱ		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	竹屋 修					
クラス名						
授業目的と到達目標						
学部における基礎的な制作研究をもとに、実際に作品を設置する事をシュミレーションして、広い視野に立った研究を進める事を目的とする。						
授業概要						
対面授業 都市空間の中に複数設置された彫刻作品及び作者について検証し、彫刻作品の本質的要素と公共性について考える。自身が作者となって設置する仮想作品を具体的にマケットとして提案する。						
受講上の注意						
日常の中の彫刻のある風景を意識する。街中の質の高い彫刻作品を見つけ る。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
彫刻作品及びスケッチ				90		
授業に取り組む姿勢				10		
教科書情報						
教科書1	なし。					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	なし。					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
彫刻家・愛知県立芸術大学・広島市立大学・名古屋芸術大学・高等学校美術			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	市街地に既に設置されている作品について作品及び作者について調査と論評。(その1)		
2	市街に既に設置されている作品についての調査。(その2)		
3	既に設置されている作品を任意に選択して作品についての検証。(その3)		
4	既存の公共作品についての検証と作者についての調査。(その4)		
5	市街地に設置される作品についての調査と検証。(その5)		
6	彫刻作品のコンセプトの検討。(その1)		
7	彫刻作品のコンセプトの検討。(その2)		
8	作品のコンセプトの検討。(その3)		
9	設置場所の周景のスケッチ(その1)		
10	彫刻設置(仮想)場所の風景スケッチ(その2)		
11	設置場所の風景スケッチ(その3)		
12	設置場所の周景のスケッチ。(その4)		

13	設置彫刻作品のデッサンによる検討。(その1)
14	彫刻作品のデッサンによる検討。(その2)
15	設置作品のデッサンによる検討。(その3)
16	設置彫刻作品によるデッサンによる検討。(その4)
17	彫刻素材について研究。(その1)
18	公共作品における素材の研究。(その2)
19	表現素材の多様性についての研究。(その3)
20	自作を設置した状況の風景スケッチ。(その1)
21	設置状況の風景スケッチ。(その2)
22	彫刻作品のマケット(縮小作品)の実制作。(その1)
23	彫刻作品の実制作。(その2)
24	縮小作品の彫刻制作。(その3)
25	設置作品のマケットの制作。(その4)
26	マケット作品の実制作。(その5)
27	設置作品の縮小モデルの制作。(その6)
28	設置作品の縮小モデルの完成。(その7)
29	彫刻の公共性と造形性についての検証。
30	仮想モニュメント制作の総括とデッサン及び彫刻作品の講評。

科目名	デザイン特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	大平 弘				
クラス名					

授業目的と到達目標

ビジュアルコミュニケーションを目的としたグラフィックデザインは、メディア・社会環境によって表現手法や表現技術が変化します。造形表現として切り取られたイラストレーションもまた同様です。視覚伝達に必要な知識を学び、独自の視点で編集(収集、整理、構成)し、表現手法を考察する事を目的にします。感覚的造形表現(各自の習得・研究)とビジュアルコミュニケーションの関わりを考え、理解を深めることを目標にします。

授業概要

対面授業|「展覧会」を想定し、①出品を想定した作品、②「展覧会」告知ポスターを作成します。|3つの視点で制作を進めます|①感覚的な視点で取り組む造形表現(各自の習得表現技術・研究内容など)を基本に制作する。|テーマに取り組む視点、また表現材料・技法に重点をおき、独創的な感覚的造形表現を探究する。|②客観的な視点|展覧会を想定し、展覧会告知ポスターを題材に、自身の作品を客観的視点を持つことを目的にします。|③全体イメージの構成／後期授業|「展覧会」の情報を視覚的に具現化する。絵(造形作品)と文字の関係を考察する。媒体:ポスター。|※後期授業では前期作品、会場設営計画、冊子制作へと表現をひろげます。|

受講上の注意

各自の研究分野を中心に広い他造形分野が予想されます。制作は各自の感覚的表現から始まるものですが、その視野を広げることは制作を続けるためにとても大切です。美術を含む他造形表現、画材、材料、技法に注意し表現の幅を広げるように心がけてください。さらに、各自の作品を客観視する目をやしなうために、多くの展覧会に足を運び、会場風景も観察の対象として注意しておいてください。合わせて「展覧会」に関わるポスター・チラシ、ダイレクトメール、冊子などを収集しておいてください。|※注意|後期課題制作に学生各自の作品画像が必要になります。そのため、学生間の連絡が可能なように準備しておいてください。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
受講態度・積極的研究参加	50
制作課題による評価	50

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
グラフィックデザイン・造形制作 デザイン関係年鑑掲載作品を含む展覧会ポスター、販売促進を中心としたグラフィックデザイン業務。 造形作品／大阪・東京・香港、阪急本店美術画廊などで個展、収蔵作品展(東京オペラシティギャラリー)。 単行本(錦木蓮著など)・文庫本(小川洋子著など)の装画。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	対面授業 課題説明 ①課題_出品作品 ②課題_B2 ポスター		

2	自身の制作作品・研究領域がわかるようにポートフォリオの提出をしていただきます。(A4 サイズのクリアファイル程度) ①課題_出品作品／アイデア案・ラフチェック／素材の検討
3	①課題_出品作品／アイデア案・ラフチェック／形態の検討／紙の検討
4	①課題_出品作品／試作
5	①課題_出品作品／形態の確認・試作によるプレゼンテーション
6	①課題_出品作品／制作／形態と絵
7	①課題_出品作品／制作
8	①課題_出品作品／制作
9	①課題_出品作品／制作
10	①課題_出品作品／制作
11	①課題_出品作品／完成・プレゼンテーション／合評
12	②課題_B2 ポスター／作品撮影
13	②課題_B2 ポスター／実寸試作 レイアウト案・ロゴタイプ案
14	②課題_B2 ポスター／実寸試作／合評
15	①課題_出品作品②課題_B2 ポスター／プレゼンテーション／合評・提出
16	③展覧会のイメージ作り A/冊子の制作 必要内容／展覧会名・会場レイアウト・会場ロゴタイプ・地図・作品データ・各出品者プロフィール B/B1 ポスター(前期ポスターを 1 案目、後期ポスターを 2 案目として制作を進めてください。)チェックは適宜。
17	③展覧会／調査・資料収集1
18	③展覧会／調査・資料収集2
19	③冊子検討案／各自の画像データ(3 点程度)・プロフィール(300 文字程度)を提出
20	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討1／冊子の試作
21	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討2／冊子の試作(実寸)／プレゼンテーション
22	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 3／冊子の試作
23	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 4／冊子の試作／プレゼンテーション
24	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 5／冊子の制作／改善
25	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 6／冊子の制作／改善
26	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 7／冊子の制作／プレゼンテーション
27	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 7／冊子の制作・B1 ポスターの試作／プレゼンテーション

28	③制作
29	③制作
30	A/冊子、B/ B 1 ポスター 完成作品の提出・プレゼンテーション ※作品のデータ提出 ※展覧会を 授業終了後に予定します。

科目名	デザイン特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	大平 弘				
クラス名					

授業目的と到達目標

ビジュアルコミュニケーションを目的としたグラフィックデザインは、メディア・社会環境によって表現手法や技術が変化する。各自の作品、前期制作のロゴタイプ・ポスターを題材に、視覚伝達の方法を検討する。また、会場を設定し空間の視覚計画を含む冊子としてまとめる。

授業概要

対面授業|視覚効果と情報伝達の方法を探る。2つの視点で視覚表現を考察する。|展示計画を通し、作品に対する考え方、役割の違い、視覚効果を検討する。それらをグラフィックデザインの表現作品として完結させる

受講上の注意

成績評価方法・基準

種別	割合(%)

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
グラフィックデザイン、造形制作 グラフィックデザインの年鑑掲載作品など、展覧会ポスター・販売促進を中心としたグラフィックデザイン業務。 単行本/鎗木蓮著など・文庫本/小川洋子著などの装画。 造形作品／大阪・東京・香港、阪急本店美術画廊などで個展、収蔵作品展/東京オペラシティギャラリーなど。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	③展覧会のイメージ作り A/冊子の制作 必要内容／展覧会名・会場レイアウト・会場ロゴタイプ・地図・作品データ・各出品者プロフィール B/B1 ポスター(前期ポスターを1案目、後期ポスターを2案目として制作を進めてください。)チェックは適宜。		
2	③展覧会／調査・資料収集1		
3	③展覧会／調査・資料収集2		
4	③冊子検討案／各自の画像データ(3点程度)・プロフィールを提出		
5	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討1／冊子の試作		
6	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討2／冊子の試作(実寸)／プレゼンテーション		
7	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討3／冊子の試作		
8	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討4／冊子の試作／プレゼンテーション		
9	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討5／冊子の制作／改善		

10	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 6／冊子の制作／改善
11	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 7／冊子の制作／プレゼンテーション
12	③会場構成 作品選出と視覚的効果の検討 7／冊子の制作・B1 ポスターの試作／プレゼンテーション
13	③制作
14	③制作
15	A/冊子、B/ B 1 ポスター 完成作品の提出・プレゼンテーション ※作品のデータ提出 ※展覧会を授業終了後に予定します。

科目名	デザイン特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	石津 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
これからの空間(場)に於ける重要なファクター(要素・要因)を受講者自らが抽出し、そのファクターの「あるべきデザイン論」によって導かれる独創的な空間(場)を提案し、そのデザインプロセスを通して、既成概念に囚われない新たな空間デザイン創出の作法を学ぶ。					
授業概要					
対面授業 提案する空間(場)の内容(インテリア系や空間演出系など)や表現方法は自由とし、受講者自らの研究課題の確立に役立つことを最優先とする。受講者が望めば研究課題の発表の場も設ける。また、関連した類似コンペ等があれば、それらに応募することも推奨する。また担当教員は、デザイナーとして展示設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。					
受講上の注意					
課題制作の内容については教員の確認をとること。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出された課題作品及び主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題のテーマ設定／課題設定のための調査・分析		
2	設定テーマの調査・分析から企画・構想(6W2H)		
3	企画・構想(アイデアからデザインの方向性決定)		
4	表現内容のシナリオ設定		
5	シナリオからコンセプトワーク		
6	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
7	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
8	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
9	表現内容(提出課題)作成		
10	表現内容(提出課題)作成		

11	表現内容(提出課題)作成
12	表現内容(提出課題)作成
13	表現内容(提出課題)ブラッシュアップ
14	表現内容(提出課題)提出
15	講評／授業のまとめ

科目名	デザイン特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	石津 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
これからの空間(場)に於ける重要なファクター(要素・要因)を受講者自らが抽出し、そのファクターの「あるべきデザイン論」によって導かれる独創的な空間(場)を提案し、そのデザインプロセスを通して、既成概念に囚われない新たな空間デザイン創出の作法を学ぶ。					
授業概要					
対面授業 提案する空間(場)の内容(インテリア系や空間演出系など)や表現方法は自由とし、受講者自らの研究課題の確立に役立つことを最優先とする。受講者が望めば研究課題の発表の場も設ける。また、関連した類似コンペ等があれば、それらに応募することも推奨する。また担当教員は、デザイナーとして展示設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。					
受講上の注意					
課題制作の内容については教員の確認をとること。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出された課題作品及び主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題のテーマ設定／課題設定のための調査・分析		
2	設定テーマの調査・分析から企画・構想(6W2H)		
3	企画・構想(アイデアからデザインの方向性決定)		
4	表現内容のシナリオ設定		
5	シナリオからコンセプトワーク		
6	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
7	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
8	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
9	表現内容(提出課題)作成		
10	表現内容(提出課題)作成		

11	表現内容(提出課題)作成
12	表現内容(提出課題)作成
13	表現内容(提出課題)ブラッシュアップ
14	表現内容(提出課題)提出
15	講評／授業のまとめ

科目名	デザイン特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	石津 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標

これからの空間(場)に於ける重要なファクター(要素・要因)を受講者自らが抽出し、そのファクターの「あるべきデザイン論」によって導かれる独創的な空間(場)を提案し、そのデザインプロセスを通して、既成概念に囚われない新たな空間デザイン創出の作法を学ぶ。

授業概要

対面授業|提案する空間(場)の内容(インテリア系や空間演出系など)や表現方法は自由とし、受講者自らの研究課題の確立に役立つことを最優先とする。受講者が望めば研究課題の発表の場も設ける。また、関連した類似コンペ等があれば、それらに応募することも推奨する。また担当教員は、デザイナーとして展示設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。

受講上の注意

課題制作の内容については教員の確認をとること。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出された課題作品及び主体的な授業参加を総合的に評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
本授業の担当教員は、デザイナーとして空間設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題のテーマ設定／課題設定のための調査・分析		
2	設定テーマの調査・分析から企画・構想(6W2H)		
3	企画・構想(アイデアからデザインの方角性決定)		
4	表現内容のシナリオ設定		
5	シナリオからコンセプトワーク		
6	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
7	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
8	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
9	表現内容(提出課題)作成		
10	表現内容(提出課題)作成		

11	表現内容(提出課題)作成
12	表現内容(提出課題)作成
13	表現内容(提出課題)ブラッシュアップ
14	表現内容(提出課題)提出 ※受講者の希望があれば発表の場を設定
15	講評／授業のまとめ

科目名	デザイン特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	石津 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標

これからの空間(場)に於ける重要なファクター(要素・要因)を受講者自らが抽出し、そのファクターの「あるべきデザイン論」によって導かれる独創的な空間(場)を提案し、そのデザインプロセスを通して、既成概念に囚われない新たな空間デザイン創出の作法を学ぶ。

授業概要

対面授業|提案する空間(場)の内容(インテリア系や空間演出系など)や表現方法は自由とし、受講者自らの研究課題の確立に役立つことを最優先とする。受講者が望めば研究課題の発表の場も設ける。また、関連した類似コンペ等があれば、それらに応募することも推奨する。また担当教員は、デザイナーとして展示設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。

受講上の注意

課題制作の内容については教員の確認をとること。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出された課題作品及び主体的な授業参加を総合的に評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
本授業の担当教員は、デザイナーとして空間設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題のテーマ設定／課題設定のための調査・分析		
2	設定テーマの調査・分析から企画・構想(6W2H)		
3	企画・構想(アイデアからデザインの方角性決定)		
4	表現内容のシナリオ設定		
5	シナリオからコンセプトワーク		
6	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
7	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
8	コンセプトに沿った計画・設計(PDCAサイクル)		
9	表現内容(提出課題)作成		
10	表現内容(提出課題)作成		

11	表現内容(提出課題)作成
12	表現内容(提出課題)作成
13	表現内容(提出課題)ブラッシュアップ
14	表現内容(提出課題)提出 ※受講者の希望があれば発表の場を設定
15	講評／授業のまとめ

科目名	デザイン特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					
授業目的と到達目標					
授業目的は、デザイン(グラフィック、プロダクト、写真)だけでなく、美術、建築、工芸、他にも通じる普遍的なデザイン理論について、学部時代に学んだことを再度基本から問い直し、深く理解することを目的とします。 デザインは企画・設計・意匠、これらを社会では、商品企画・設計開発・マーケティング・ブランディングと連携して確立させます。これら一連の広義のデザインを体系的に学びます。					
授業概要					
対面授業 多様なデザインの基本法則をテーマに、ワークショップやディスカッションを重ねながら進めます。それらの学びは、領域を越えたデザインにも通じ、アート全般の普遍的な法則の体得となります。さらにマーケティングやマネージメントの学びは、学生自らの市場づくりにもつながり、生き方のデザインとなり得ます。これらの授業を通して、デザインの多様な知見を習得します。					
受講上の注意					
授業資料を参考に、予習復習を行ってください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。			100		
教科書情報					
教科書1	ロボティクスデザイン				
出版社名	美術出版	著者名	中川志信		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の前半は、デザインの基礎的なワークショップを行い、アフォーダンスや潜在ニーズ、感性工学、文化との関係性などのデザインを学びます。後半は、商品企画、マーケティングやマネジメント、ブランディングとデザインに必要な領域を拡大して授業を進めます。こちらでも、市場調査方法、ポジショニングマップのつくり方、SWOT 分析などの手法を学びます。以上の流れを基本としますが、受講メンバーで内容を変更する可能性もあります。		

科目名	デザイン特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					

授業目的と到達目標

授業目的は、デザイン(グラフィック、プロダクト、写真)だけでなく、美術、建築、工芸、他にも通じる普遍的なデザイン理論について、学部時代に学んだことを再度基本から問い直し、深く理解することを目的とします。|デザインは企画・設計・意匠、これらを社会では、商品企画・設計開発・マーケティング・ブランディングと連携して確立させます。これら一連の広義のデザインを体系的に学びます。|

授業概要

[対面授業] |授業は、多様なデザインの基本法則をテーマに、ワークショップやディスカッションを重ねながら進めます。それらの学びは、領域を越えたデザインにも通じ、アート全般の普遍的な法則の体得となります。さらにマーケティングやマネージメントの学びは、学生自らの市場づくりにもつながり、生き方のデザインとなり得ます。これらの授業を通して、デザインの多様な知見を習得します。|

受講上の注意

授業資料を参考に、予習復習を行ってください。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。	

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能(能+文楽)から先端デザインへ展開している。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	デザイン研究演習		
2	デザイン研究演習		
3	デザイン研究演習		
4	デザイン研究演習		
5	デザイン研究演習		
6	デザイン研究演習		
7	デザイン研究演習		

8	デザイン研究演習
9	デザイン研究演習
10	デザイン研究演習
11	デザイン研究演習
12	デザイン研究演習
13	デザイン研究演習
14	デザイン研究演習
15	デザイン研究演習 総括

科目名	美学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
一般には誤解されることの多い「美学」という学問がじっさいにはどのようなものであるのかをその歴史的展開のなかで理解することを目的とする。芸術にたずさわる大学院生として、美学の正確な意味を他人に伝えることができるようになることを目指したい。					
授業概要					
対面授業 第2回から第15回まで各回ごとに美学史上の古典的な文献を採りあげて、内容紹介と検討を行う。具体的には、古代ギリシア、近代のドイツや日本の美学者たちによる諸著作を概観する。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。					
受講上の注意					
講義までに授業資料として提示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに自らの制作や研究課題に直結する問題意識とともに理解すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)			100		
教科書情報					
教科書1	授業内でプリントを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1	『美学の事典』		
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編
参考書名2	『西洋美学史』		
出版社名	東京大学出版会	著者名	小田部胤久
参考書名3	『美の変貌』		
出版社名	世界思想社	著者名	当津武彦編
参考書名4	『西洋美学のエッセンス』		
出版社名	ペリかん社	著者名	今道友信編
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	04/11 講義の概要説明と受講者の自己紹介		
2	04/18 ギリシャの美学 プラトン『パイドロス』『国家』		
3	04/25 ギリシャの美学 アリストテレス『詩学』		
4	05/02 美学の成立 バウムガルテン『美学』		
5	05/09 美学の成立 カント『判断力批判』		
6	05/16 美学の展開 ヴィンケルマン『ギリシャ美術模倣論』『古代美術史』		
7	05/23 美学の展開 レッシング『ラオコオン』		
8	05/30 近代美学の完成 ヘーゲル『美学講義』		
9	06/06 近代美学の完成 ニーチェ『音楽の精髓からの悲劇の誕生』		
10	06/13 20 世紀前半の美学 ハイデgger『芸術作品の根源』		

11	06/20 20 世紀前半の美学 ベンヤミン『複製が可能になった時代の芸術作品』
12	06/27 20 世紀後半の美学 エーコ『開かれた作品』
13	07/04 20 世紀後半の美学 ダントー『ありふれたものの変容』
14	07/11 日本の美学 九鬼周造『「いき」の構造』
15	07/25 日本の美学 和辻哲郎『風土』
16	09/12 美学とは？ 講義内容の概説
17	09/26 「美」と「醜」 古典主義美学の伝統
18	10/03 「美的なもの」 美的(エステティック)なものについて
19	10/11(火)「無関心性」と「没概念性」 カント『判断力批判』の解説
20	10/17 「合目的性」と「必然性」 カント『判断力批判』の解説
21	10/24 「趣味と天才」 カント『判断力批判』の解説
22	11/07 「芸術」 美学と芸術との関係についての概説
23	11/14 日本への美学の導入と展開 西周、フェノロサ、森林太郎、中江兆民、夏目漱石などにおける美学
24	11/21 日本的美意識 日本語や漢字に見る美意識、「わびさび」から「かわいい」まで
25	11/28 美学の現代的課題(美意識と政治)
26	12/05 美学の現代的課題(身体論:エステ・化粧・ファッション)
27	12/12 美学の現代的課題(環境美学、崇高と災害)
28	12/19 美学の現代的課題(感性の工学的数値化、先端テクノロジーへの対応)
29	01/16 美学の現代的課題(パンデミックと美学、清潔感と美意識)
30	01/23 全体のまとめ(回顧と展望)

科目名	美学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
一般には誤解されることの多い「美学」という学問がじっさいにはどのようなものであるのかを理解できるようになることを目的とする。芸術にたずさわる大学院生として、美学の正確な意味とその現代的課題を他人に伝えることができるようになることを目指したい。					
授業概要					
対面授業 第2回から第15回まで各回ごとに美学の基本用語(美意識、美醜、感覚と感情、趣味と天才など)の紹介と検討を行い、最後に、現代社会において美学が果たす役割について展望する。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。					
受講上の注意					
講義までに授業資料として提示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに自らの制作や研究課題に直結する問題意識とともに理解すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)			100		
教科書情報					
教科書1	授業内でプリントを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1	『美学の事典』		
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編
参考書名2	『美学への手引き』		
出版社名	白水社	著者名	タロン=ユゴン,
参考書名3	『美学辞典』		
出版社名	東京大学出版会	著者名	佐々木健一
参考書名4	『美学のキーワード』		
出版社名	勁草書房	著者名	ヘンクマン他
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	09/12 美学とは？ 講義内容の概説		
2	09/26 「美」と「醜」 古典主義美学の伝統		
3	10/03 「美的なもの」 美的(エステティック)なものについて		
4	10/11(火)「無関心性」と「没概念性」 カント『判断力批判』の解説		
5	10/17 「合目的性」と「必然性」 カント『判断力批判』の解説		
6	10/24 「趣味と天才」 カント『判断力批判』の解説		
7	11/07 「芸術」 美学と芸術との関係についての概説		
8	11/14 日本への美学の導入と展開 西周、フェノロサ、森林太郎、中江兆民、夏目漱石などにおける美学		
9	11/21 日本的美意識 日本語や漢字に見る美意識、「わびさび」から「かわいい」まで		
10	11/28 美学の現代的課題(美意識と政治)		

11	12/05 美学の現代的課題(身体論:エステ・化粧・ファッション)
12	12/12 美学の現代的課題(環境美学、崇高と災害)
13	12/19 美学の現代的課題(感性の工学的数値化、先端テクノロジーへの対応)
14	01/16 美学の現代的課題(パンデミックと美学、清潔感と美意識)
15	01/23 全体のまとめ(回顧と展望)

科目名	美術史学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本美術の特徴を作品内容の読み解きを通して理解することを目指します。仏画、物語や随筆、意匠などさまざまなジャンルに分類されるなかから、代表的な古美術作品を選んで、独自の造形感覚や表現を考えながら、日本美術に対して多くの視点を持つことを目標にします。

授業概要

日本絵画史における物語絵のテキスト解釈と絵画表現との関連を、源氏物語や伊勢物語を内容にした源氏絵や伊勢物語絵、また三大随筆の一つの徒然草の絵画などを取り上げます。パワーポイントを用いて画像を提示し講義します。作品解釈や表現などに関して意見を交換しながら理解を深めていくよう授業を進めます。

受講上の注意

展覧会でさまざまな作品を観てください。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
レポート	70
平常の授業態度	30

教科書情報

教科書1	使用しません。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	『豪華源氏絵の世界』		
出版社名	学習研究社	著者名	秋山虔・田口榮一監修
参考書名2	『和泉市久保惣記念美術館 源氏物語手鑑研究』		
出版社名	和泉市久保惣記念美術館	著者名	河田昌之
参考書名3	『伊勢物語絵巻絵本大成』		
出版社名	角川学芸出版	著者名	羽衣国際大学日本文化研究所編
参考書名4	展覧会図録「徒然草 美術で楽しむ古典文学」2014 年		
出版社名	サントリー美術館	著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
登録博物館の学芸員として、約 30 年間に展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約 10 年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネジメント分野にも携わる。展覧会の企画や開催の実務、海外での作品調査の経験も多い。著書、論文が複数ある。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	源氏絵について 1(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
2	源氏絵について 2(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
3	源氏絵の流れ 1 図様の比較		
4	源氏絵の作例 1 久保惣美術館本 「源氏物語手鑑」の特徴 1		
5	源氏絵の作例 1 久保惣美術館本 「源氏物語手鑑」の特徴 2		
6	源氏絵の作例 1 久保惣美術館本 「源氏物語手鑑」の特徴 3		

7	源氏絵の作例 1 久保惣美術館本 「源氏物語手鑑」の特徴 4
8	源氏絵の作例 2 土佐光則の源氏絵の特徴 1
9	源氏絵の作例 2 土佐光則の源氏絵の特徴 2
10	源氏絵の作例 2 土佐光則の源氏絵の特徴 3
11	源氏絵の作例 3 白描源氏絵の特徴 1 (バーク・コレクション)
12	源氏絵の作例 3 白描源氏絵の特徴 2 (フリーア・コレクション)
13	源氏絵の作例 3 白描源氏絵の特徴 3 (東博所蔵本)
14	源氏絵の作例 3 白描源氏絵の特徴 4 (その他)
15	源氏絵の作例 4 流派別の源氏絵
16	伊勢物語絵について 1 (平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)
17	伊勢物語絵について 2 (平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)
18	伊勢物語絵作例 1 (久保惣美術館本 1)
19	伊勢物語絵作例 1 (久保惣美術館本 2)
20	伊勢物語絵作例 2 (小野本 1)
21	伊勢物語絵作例 2 (小野本 2)
22	伊勢物語絵作例 3 (スペンサーコレクション本)
23	伊勢物語絵作例 4 (嵯峨本)
24	伊勢物語絵作例 5 (宗達色紙)
25	伊勢物語絵作例 6 (光琳、乾山の作品)
26	伊勢物語絵作例 6 (住吉如慶筆本)
27	徒然草の絵画 (徒然草図の流れ)
28	徒然草図の作例 1 (住吉派 1)
29	徒然草図の作例 2 (住吉派 2)
30	まとめ 流派による物語理解や表現

科目名	美術史学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標

本講義は美術史学に必要な基礎知識を習得することを目的とする。|図像学の基礎である文献(典拠)と図像の関係をしっかり押さえ、それに|基づいて、一つの作品の特殊性を解明する訓練を行う。後期はヴェネツィア共和国における神話形成に関する基礎文献を英語で読む。|

授業概要

[前期]美術史学の基礎の一つイコノグラフィーをギリシア・ローマの神話主題とキリスト教主題に関して考察する。|[後期]David Rosand 著 Myths of Venice(ヴェネツィアの神話)|The University of North Carolina Press, 2001 を輪読する。|

受講上の注意

美術史学の基礎知識を習得すると同時に、先行研究論文の読み方もしっかり|リマスターしてほしい。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
平常点	50
レポート	50

教科書情報

教科書1	西洋美術の歴史 4 ルネサンス 1		
出版社名	中央公論新社	著者名	小佐野重利他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	西洋美術解説事典		
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション イコノグラフィーとイコノロジー ギリシア・ローマ神話主題とキリスト教主題		
2	ウェヌスの変容 1 ギリシア神話のアフロディテの画像が裸婦、横臥像になる過程を追ひ、それがローマ神話の中でウェヌス画像として帝国内に広がっていく様子を理解する。		
3	ウェヌスの変容 2 古代世界で形成された「横たわる裸婦」としてのウェヌス画像が、ルネサンス以降の美術の中でどのように受け継がれていくかを理解する。		
4	ヘラクレスの変容 1 ギリシア・ローマ神話の中で、第一の英雄としてのヘラクレス画像を、十二神業を中心として理解する。		
5	ヘラクレスの変容 2 ルネサンス以降の美術の中で、ヘラクレス画像がどのように援用されていくかを理解する。		
6	ヴェネツィア神話の誕生 泥の中から生まれたヴェネツィア共和国が、自らを神話化していく過程を追う。		
7	ヴェネツィア神話の変容 ヴェネツィアと正義、聖母マリアが重ねられる作例とその契機について学ぶ。		

8	ヴェネツィア神話の完成 不可侵の処女としてのヴェネツィアとアストラエア、乙女座が重ねられる作例について学ぶ。
9	聖マルコの物語 1 本来の福音書記者聖マルコ伝を学ぶ。中世における図像の作例を理解する。
10	聖マルコの物語 2 トゥッツリオ・ロンバルド作《総督ジョヴァンニ・モチェニーゴ記念碑》に見られる図像の問題点を指摘する。
11	聖マルコの物語 3 聖マルコとアニアヌスの図像がどのような変遷を辿るかを理解する。
12	ヴェネツィアの図像体系 1 ヴェネツィア共和国の中心であるサン・マルコ広場に込められた象徴的意味を理解する。サン・マルコ聖堂の図像について学ぶ。
13	ヴェネツィアの図像体系 2 サン・マルコ広場に込められた象徴的意味を理解する。総督宮殿について学ぶ。
14	ヴェネツィアの図像体系 3 サン・マルコ広場に込められた象徴的意味を理解する。新旧行政館、時計塔、ナポレオン翼などについて学ぶ。
15	学生発表とレポート提出
16	Myths of Venice Introduction
17	The Appropriation of Olympus
18	The Peace of Saint Mark 1
19	The Peace of Saint Mark 2
20	The Peace of Saint Mark 3
21	The Peace of Saint Mark 4
22	The Peace of Saint Mark 5
23	The Wisdom of Solomon 1
24	The Wisdom of Solomon 2
25	The Wisdom of Solomon 3
26	The Wisdom of Solomon 4
27	The Wisdom of Solomon 5
28	The Appropriation of Olympus 1
29	The Appropriation of Olympus 2
30	The Appropriation of Olympus 3 レポート提出

科目名	美術史学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本美術の特徴を作品内容の読み解きを通して理解することを目指します。仏画、物語や随筆、意匠などさまざまなジャンルに分類されるなかから、代表的な古美術作品を選んで、独自の造形感覚や表現を考えながら、日本美術に対して多くの視点を持つことを目標にします。					
授業概要					
日本絵画史における物語絵のテキスト解釈と絵画表現との関連を、源氏物語や伊勢物語を内容にした源氏絵や伊勢物語絵、また三大随筆の一つの徒然草の絵画などを取り上げます。パワーポイントを用いて画像を提示し講義します。作品解釈や表現などに関して意見を交換しながら理解を深めていくよう授業を進めます。					
受講上の注意					
展覧会でさまざまな作品を観てください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			70		
平常の授業態度			30		
教科書情報					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	『豪華源氏絵の世界』		
出版社名	学習研究社	著者名	秋山虔・田口榮一監修
参考書名2	『土佐派源氏絵研究』		
出版社名	和泉市久保惣記念美術館	著者名	河田昌之
参考書名3	『伊勢物語絵巻絵本大成』		
出版社名	角川学芸出版	著者名	羽衣国際大学日本文化研究所編
参考書名4	展覧会図録「徒然草 美術で楽しむ古典文学」2014 年		
出版社名	サントリー美術館	著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
登録博物館の学芸員として、約 30 年間に展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約 10 年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネジメント分野にも携わる。展覧会の企画や開催の実務、海外での作品調査の経験も多い。著書、論文が複数ある。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	伊勢物語絵について 1(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
2	伊勢物語絵について 2(平安～江戸時代 絵巻・冊子・扇面・色紙・屏風)		
3	伊勢物語絵作例 1 (久保惣美術館本 1)		
4	伊勢物語絵作例 1 (久保惣美術館本 2)		
5	伊勢物語絵作例 2 (小野本 1)		
6	伊勢物語絵作例 2 (小野本 2)		
7	伊勢物語絵作例 3 (スペンサーコレクション本)		
8	伊勢物語絵作例 4 (嵯峨本)		
9	伊勢物語絵作例 5(宗達色紙)		

10	伊勢物語絵作例 6（光琳、乾山の作品）
11	伊勢物語絵作例 7（住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」）
12	徒然草の絵画（徒然草図の流れ）
13	徒然草図の作例 1（住吉派 1）
14	徒然草図の作例 2（住吉派 2）
15	まとめ 流派による物語理解や表現

科目名	美術史学特論		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	講義		
教員名	石井 元章					
クラス名						
授業目的と到達目標						
本講義は美術史学研究に必要な基礎知識を習得することを目的とし、後期はヴェネツィア共和国における「神話」形成に関するローザンド著の基礎文献『ヴェネツィア神話』を講読する。						
授業概要						
David Rosand, Myths of Venice, The University of North Carolina Press, 2001 を講読する。						
受講上の注意						
後期は先行研究の読み方を学ぶ。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
平常点				50		
発表、レポート				50		
教科書情報						
教科書1	Myths of Venice					
出版社名	The University of North Carolina Press		著者名	David Rosand		
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1	西洋美術の歴史 4 ルネサンス 1					

出版社名	中央公論新社	著者名	小佐野重利他
参考書名2	西洋美術解説事典		
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	Introduction		
2	The Appropriation of Olympus		
3	The Appropriation of Olympus		
4	The Appropriation of Olympus		
5	The Appropriation of Olympus		
6	The Appropriation of Olympus		
7	The Appropriation of Olympus		
8	The Appropriation of Olympus		
9	The Appropriation of Olympus		
10	The Appropriation of Olympus		
11	The Appropriation of Olympus		
12	The Appropriation of Olympus		
13	The Appropriation of Olympus		

14	The Appropriation of Olympus
15	The Appropriation of Olympus

科目名	文学創作特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	玄 月				
クラス名					

授業目的と到達目標

タイプの違ういくつかの短編小説の構造分析を行い、文体、構成を研究する。短編を創作するとともに、批評眼を養う。

授業概要

これまで漫然と読んできたであろう小説から、視点、文体、構成、長所、欠点、作者の癖などを洗い出し、詳しく分析する。そこで得た「小説の技法」を元に、短編を創作し、批評し合う。

受講上の注意

読む・書くだけでなく、人の話をよく聞き、理解すること。指定された本は精読すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題はすべて提出。主体的な授業参加 3 分の 2 以上	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
芥川賞作家としての経験を活かし、創作技法や批評眼を習得させる。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	一年間の授業概要とスケジュールの説明。		
2	教授による短編小説の構造分析。		
3	教授による短編小説の構造分析。		
4	教授による短編小説の構造分析。		
5	教授による短編小説の構造分析。		
6	教授による短編小説の構造分析。		
7	教授による短編小説の構造分析。		
8	教授による短編小説の構造分析。		
9	教授による短編小説の構造分析。		
10	教授による短編小説の構造分析。		
11	教授による短編小説の構造分析。		
12	教授による短編小説の構造分析。		

13	院生による短編小説の構造分析。
14	院生による短編小説の構造分析。
15	院生による短編小説の構造分析。
16	自由課題での創作と批評
17	自由課題での創作と批評
18	自由課題での創作と批評
19	自由課題での創作と批評
20	自由課題での創作と批評
21	自由課題での創作と批評
22	自由課題での創作と批評
23	自由課題での創作と批評
24	自由課題での創作と批評
25	自由課題での創作と批評
26	自由課題での創作と批評
27	自由課題での創作と批評
28	自由課題での創作と批評
29	自由課題での創作と批評
30	自由課題での創作と批評

科目名	文学創作特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	玄 月				
クラス名					

授業目的と到達目標

タイプの違ういくつかの短編小説の構造分析を行い、文体、構成を研究する。短編を創作するとともに、批評眼を養う。

授業概要

これまで漫然と読んできたであろう小説から、視点、文体、構成、長所、欠点、作者の癖などを洗い出し、詳しく分析する。そこで得た「小説の技法」を元に、短編を創作し、批評し合う。

受講上の注意

読む・書くだけでなく、人の話をよく聞き、理解すること。指定された本は精読すること。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題はすべて提出。主体的な授業参加 3 分の 2 以上	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
芥川賞作家としての経験を活かし、創作技法や批評眼を習得させる。			
教員実務経験			
芥川賞作家			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	一年間の授業概要とスケジュールの説明。		
2	教授による短編小説の構造分析。		
3	教授による短編小説の構造分析。		
4	教授による短編小説の構造分析。		
5	教授による短編小説の構造分析。		
6	教授による短編小説の構造分析。		
7	教授による短編小説の構造分析。		
8	教授による短編小説の構造分析。		
9	教授による短編小説の構造分析。		
10	教授による短編小説の構造分析。		
11	教授による短編小説の構造分析。		

12	教授による短編小説の構造分析。
13	院生による短編小説の構造分析。
14	院生による短編小説の構造分析。
15	院生による短編小説の構造分析。
16	自由課題での創作と批評
17	自由課題での創作と批評
18	自由課題での創作と批評
19	自由課題での創作と批評
20	自由課題での創作と批評
21	自由課題での創作と批評
22	自由課題での創作と批評
23	自由課題での創作と批評
24	自由課題での創作と批評
25	自由課題での創作と批評
26	自由課題での創作と批評
27	自由課題での創作と批評
28	自由課題での創作と批評
29	自由課題での創作と批評
30	自由課題での創作と批評

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文芸学・演劇学に関する論文の読解と受講者による研究発表をおこなう。					
授業概要					
対面授業 受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時 DVD(演劇・映画等)を利用する。					
受講上の注意					
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		

14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	川南 恵				
クラス名					
授業目的と到達目標					
各自の興味関心に即して学びを進め、修士論文としてまとめることを目的とする。まず、各自の問題意識からテーマを選定し、そのテーマを追求できる適切な理論的枠組みや研究手法(アプローチ)を検討する。また、論文執筆のために必要な文献資料や先行研究の収集、執筆の段取りやスケジューリングを学ぶ。最終的に、各自が質の高い修士論文を実際に執筆することが到達目標である。					
授業概要					
「対面授業」1 年次は専門領域のテーマにそって、先行研究を始めとする資料・文献の収集と読み込み、またフィールドにおける調査などをおこない、その成果を研究レポートとして書き上げ、発表する。2 年次は、段階的に原稿チェックを受けながら修士論文の完成を目指す。					
受講上の注意					
関連文献を多く読むこと、文献の内容の要約や自分の思考を論理的に「書くこと」が頻繁に求められるため、授業外にその時間をしっかりと確保して受講すること。夏期・冬期休暇中にも調査・研究を進めておくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	授業内で提示する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1	新版 論文の教室 ～レポートから卒論まで～		
出版社名	NHK 出版	著者名	戸田山和久
参考書名2	情報生産者になる		
出版社名	ちくま新書	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
演劇教育・俳優育成・教育研究者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	研究計画の確認		
3	研究計画の確認		
4	研究計画の確認		
5	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
6	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
7	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
8	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
9	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
10	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		

11	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
12	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
13	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
14	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
15	前期のまとめ・ふりかえり、今後の研究の進め方の確認
16	ガイダンス
17	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
18	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
19	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
20	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
21	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
22	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
23	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
24	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
25	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
26	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
27	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
28	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
29	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
30	論文・研究レポート提出、全体のまとめ・ふりかえり

科目名	文芸学・演劇学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	団野 恵美子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作 成する。						
授業概要						
対面授業 学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをし て、論文を仕上げるまでを指導する。						
受講上の注意						
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこ と。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を 発表できるようにすること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題提出				70		
個人発表				30		
教科書情報						
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス:各個人の研究分野について発表・相談		
2	論文とはどういうものか		
3	図書館の利用、資料収集について		
4	専門領域における論文のテーマ決定		
5	各個人について、論文のテーマのための読書リスト作り		
6	文献引用について、原稿の書き方など		
7	論文の章立て		
8	論文チェック		
9	論文チェック		
10	中間発表:各個人が執筆中の論文について発表をする		
11	論文チェック		
12	論文チェック		
13	論文チェック		

14	論文チェック
15	前期論文提出
16	前期提出の論文について返却と講評
17	新しい視点と調査について
18	論文を仕上げるまでの計画
19	論文執筆しながらの研究について
20	論文チェック
21	論文チェック
22	論文チェック
23	論文チェック
24	論文チェック
25	論文チェック
26	論文チェック
27	グループ内で論文発表
28	論文チェック
29	論文最終チェック
30	後期論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	川南 恵				
クラス名					

授業目的と到達目標

各自の興味関心に即して学びを進め、修士論文としてまとめることを目的とする。まず、各自の問題意識からテーマを選定し、そのテーマを追求できる適切な理論的枠組みや研究手法(アプローチ)を検討する。また、論文執筆のために必要な文献資料や先行研究の収集、執筆の段取りやスケジューリングを学ぶ。最終的に、各自が質の高い修士論文を実際に執筆することが到達目標である。

授業概要

「対面授業」1 年次は専門領域のテーマにそって、先行研究を始めとする資料・文献の収集と読み込み、またフィールドにおける調査などをおこない、その成果を研究レポートとして書き上げ、発表する。2 年次は、段階的に原稿チェックを受けながら修士論文の完成を目指す。

受講上の注意

関連文献を多く読むこと、文献の内容の要約や自分の思考を論理的に「書くこと」が頻繁に求められるため、授業外にその時間をしっかりと確保して受講すること。夏期・冬期休暇中にも調査・研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1	授業内で提示する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	新版 論文の教室 ～レポートから卒論まで～		
出版社名	NHK 出版	著者名	戸田山和久
参考書名2	情報生産者になる		
出版社名	ちくま新書	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
演劇教育・俳優育成・教育研究者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
3	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
4	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
5	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
6	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
7	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
8	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
9	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
10	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		

11	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
12	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
13	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
14	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
15	論文・研究レポートの提出、まとめ・ふりかえり

科目名	文芸学・演劇学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	団野 恵美子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作 成する。						
授業概要						
対面授業 学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマを選びをし て、論文を仕上げるまでを指導する。						
受講上の注意						
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこ と。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を 発表できるようにすること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題提出				70		
授業内発表				30		
教科書情報						
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期提出の論文について返却と講評		
2	新しい視点と調査について		
3	論文を仕上げるまでの計画		
4	論文執筆しながらの研究について		
5	論文チェックと指導		
6	論文チェックと指導		
7	論文チェックと指導		
8	論文チェックと指導		
9	論文チェックと指導		
10	論文チェックと指導		
11	論文チェックと指導		
12	授業内で論文発表		
13	論文チェックと指導		

14	論文最終チェック
15	後期の論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習		年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	出口 逸平					
クラス名						
授業目的と到達目標						
文芸学・演劇学に関する論文の読解と受講者による研究発表をおこなう。						
授業概要						
対面授業 受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。						
受講上の注意						
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1	各人の関心に応じて指導する。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		

14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	川南 恵				
クラス名					

授業目的と到達目標

各自の興味関心に即して学びを進め、修士論文としてまとめることを目的とする。まず、各自の問題意識からテーマを選定し、そのテーマを追求できる適切な理論的枠組みや研究手法(アプローチ)を検討する。また、論文執筆のために必要な文献資料や先行研究の収集、執筆の段取りやスケジューリングを学ぶ。最終的に、各自が質の高い修士論文を実際に執筆することが到達目標である。

授業概要

「対面授業」1 年次は専門領域のテーマにそって、先行研究を始めとする資料・文献の収集と読み込み、またフィールドにおける調査などをおこない、その成果を研究レポートとして書き上げ、発表する。2 年次は、段階的に原稿チェックを受けながら修士論文の完成を目指す。

受講上の注意

関連文献を多く読むこと、文献の内容の要約や自分の思考を論理的に「書くこと」が頻繁に求められるため、授業外にその時間をしっかりと確保して受講すること。夏期・冬期休暇中にも調査・研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1	授業内で提示する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	新版 論文の教室 ～レポートから卒論まで～		
出版社名	NHK 出版	著者名	戸田山和久
参考書名2	情報生産者になる		
出版社名	ちくま新書	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
演劇教育・俳優育成・教育研究者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	研究計画の確認		
3	研究計画の確認		
4	研究計画の確認		
5	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
6	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
7	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
8	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
9	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
10	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		

11	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
12	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
13	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
14	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
15	前期のまとめ・ふりかえり、今後の研究の進め方の確認
16	ガイダンス
17	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
18	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
19	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
20	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
21	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
22	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
23	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
24	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
25	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
26	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
27	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
28	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
29	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
30	論文・研究レポート提出、全体のまとめ・ふりかえり

科目名	文芸学・演劇学研究演習		年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	団野 恵美子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作 成する。						
授業概要						
対面授業 学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをし て、論文を仕上げるまでを指導する。						
受講上の注意						
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこ と。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を 発表できるようにすること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題提出				70		
個人発表				30		
教科書情報						
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス:各個人の研究分野について発表・相談		
2	論文とはどういうものか		
3	図書館の利用、資料収集について		
4	専門領域における論文のテーマ決定		
5	各個人について、論文のテーマのための読書リスト作り		
6	文献引用について、原稿の書き方など		
7	論文の章立て		
8	論文チェック		
9	論文チェック		
10	中間発表:各個人が執筆中の論文について発表をする		
11	論文チェック		
12	論文チェック		
13	論文チェック		

14	論文チェック
15	前期論文提出
16	前期提出の論文について返却と講評
17	新しい視点と調査について
18	論文を仕上げるまでの計画
19	論文執筆しながらの研究について
20	論文チェック
21	論文チェック
22	論文チェック
23	論文チェック
24	論文チェック
25	論文チェック
26	論文チェック
27	グループ内で論文発表
28	論文チェック
29	論文最終チェック
30	後期論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習		年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	川南 恵					
クラス名						
授業目的と到達目標						
各自の興味関心に即して学びを進め、修士論文としてまとめることを目的とする。まず、各自の問題意識からテーマを選定し、そのテーマを追求できる適切な理論的枠組みや研究手法(アプローチ)を検討する。また、論文執筆のために必要な文献資料や先行研究の収集、執筆の段取りやスケジューリングを学ぶ。最終的に、各自が質の高い修士論文を実際に執筆することが到達目標である。						
授業概要						
「対面授業」1 年次は専門領域のテーマにそって、先行研究を始めとする資料・文献の収集と読み込み、またフィールドにおける調査などをおこない、その成果を研究レポートとして書き上げ、発表する。2 年次は、段階的に原稿チェックを受けながら修士論文の完成を目指す。						
受講上の注意						
関連文献を多く読むこと、文献の内容の要約や自分の思考を論理的に「書くこと」が頻繁に求められるため、授業外にその時間をしっかりと確保して受講すること。夏期・冬期休暇中にも調査・研究を進めておくこと。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
総合評価				100		
教科書情報						
教科書1	授業内で提示する。					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			

参考書情報			
参考書名1	新版 論文の教室 ～レポートから卒論まで～		
出版社名	NHK 出版	著者名	戸田山和久
参考書名2	情報生産者になる		
出版社名	ちくま新書	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
演劇教育・俳優育成・教育研究者			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス		
2	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
3	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
4	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
5	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
6	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
7	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
8	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
9	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		
10	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認		

11	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
12	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
13	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
14	論文原稿・研究レポートの進捗状況の確認
15	論文・研究レポートの提出、まとめ・ふりかえり

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作 成する。					
授業概要					
対面授業 学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをし て、論文を仕上げるまでを指導する。					
受講上の注意					
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこ と。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を 発表できるようにすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出			70		
授業内発表			30		
教科書情報					
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期提出の論文について返却と講評		
2	新しい視点と調査について		
3	論文を仕上げるまでの計画		
4	論文執筆しながらの研究について		
5	論文チェックと指導		
6	論文チェックと指導		
7	論文チェックと指導		
8	論文チェックと指導		
9	論文チェックと指導		
10	論文チェックと指導		
11	論文チェックと指導		
12	授業内で論文発表		
13	論文チェックと指導		

14	論文最終チェック
15	後期の論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
文芸学・演劇学に関する論文の読解と受講者による研究発表をおこなう。					
授業概要					
対面授業 受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。					
受講上の注意					
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	各人の関心に応じて指導する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。		

14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	文芸学・演劇学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	団野 恵美子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作 成する。						
授業概要						
対面授業 学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマを選びをし て、論文を仕上げるまでを指導する。						
受講上の注意						
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこ と。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を 発表できるようにすること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題提出				70		
個人発表				30		
教科書情報						
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する					
出版社名			著者名			
教科書2						
出版社名			著者名			
教科書3						
出版社名			著者名			
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス:各個人の研究分野について発表・相談		
2	論文とはどういうものか		
3	図書館の利用、資料収集について		
4	専門領域における論文のテーマ決定		
5	各個人について、論文のテーマのための読書リスト作り		
6	文献引用について、原稿の書き方など		
7	論文の章立て		
8	論文チェック		
9	論文チェック		
10	中間発表:各個人が執筆中の論文について発表をする		
11	論文チェック		
12	論文チェック		
13	論文チェック		

14	論文チェック
15	前期論文提出
16	前期提出の論文について返却と講評
17	新しい視点と調査について
18	論文を仕上げるまでの計画
19	論文執筆しながらの研究について
20	論文チェック
21	論文チェック
22	論文チェック
23	論文チェック
24	論文チェック
25	論文チェック
26	論文チェック
27	グループ内で論文発表
28	論文チェック
29	論文最終チェック
30	後期論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	団野 恵美子					
クラス名						
授業目的と到達目標						
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作 成する。						
授業概要						
対面授業 学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマを選びをし て、論文を仕上げるまでを指導する。						
受講上の注意						
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこ と。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を 発表できるようにすること。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
課題提出				70		
授業内発表				30		
教科書情報						
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期提出の論文について返却と講評		
2	新しい視点と調査について		
3	論文を仕上げるまでの計画		
4	論文執筆しながらの研究について		
5	論文チェックと指導		
6	論文チェックと指導		
7	論文チェックと指導		
8	論文チェックと指導		
9	論文チェックと指導		
10	論文チェックと指導		
11	論文チェックと指導		
12	授業内で論文発表		
13	論文チェックと指導		

14	論文最終チェック
15	後期の論文提出

科目名	文芸学作品研究		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期		形態	演習		
教員名	山田 兼士					
クラス名						
授業目的と到達目標						
現代文学の決定的出発点というべきボードレール『小散文詩 パリの憂愁』を読む						
授業概要						
対面授業 ボードレールの散文詩集を精読することで文芸作品への理解を深める。						
受講上の注意						
テキストは日本語翻訳を用いるが、フランス語原文にはできるだけ興味をもってほしい。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
レポート				100		
教科書情報						
教科書1	教室で指示する。					
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						
出版社名		著者名				
参考書名2						

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{山田兼士の研究室,http://yamadakenji.la.coocan.jp}			
特記事項			
教員実務経験			
詩集7冊など著書40冊			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ボードレール 人と作品		
2	詩集『悪の華』成立まで		
3	『悪の華』第2版まで		
4	韻文詩から散文詩へ		
5	『パリの憂愁』の全体像		
6	『パリの憂愁』1, 2		
7	『パリの憂愁』3, 4		
8	『パリの憂愁』5, 6		
9	『パリの憂愁』7, 8		
10	『パリの憂愁』9, 10		
11	『パリの憂愁』11, 12		
12	『パリの憂愁』13, 14		
13	『パリの憂愁』15, 16		

14	『パリの憂愁』17,18
15	『パリの憂愁』19,20

科目名	文芸学作品研究		年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期		形態	演習		
教員名	山田 兼士					
クラス名						
授業目的と到達目標						
ボードレール『小散文詩 パリの憂愁』を読む						
授業概要						
対面授業。 ボードレールの散文詩集を精読することで文芸作品への理解を深める。						
受講上の注意						
テキストは日本語翻訳を用いるが、フランス語原文にはできるだけ興味をもってほしい。						
成績評価方法・基準						
種別				割合(%)		
教科書情報						
教科書1						
出版社名		著者名				
教科書2						
出版社名		著者名				
教科書3						
出版社名		著者名				
参考書情報						
参考書名1						
出版社名		著者名				
参考書名2						

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{山田兼士の研究室,http://yamadakenji.la.coocan.jp/}			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	『パリの憂愁』21, 22		
2	『パリの憂愁』23,24		
3	『パリの憂愁』25,26		
4	『パリの憂愁』27, 28		
5	『パリの憂愁』29,30		
6	『パリの憂愁』31,32		
7	『パリの憂愁』33,34		
8	『パリの憂愁』35,36		
9	『パリの憂愁』37,38		
10	『パリの憂愁』39,40		
11	『パリの憂愁』41,42		
12	『パリの憂愁』43,44		
13	『パリの憂愁』45, 46		
14	『パリの憂愁』47, 48		

科目名	文芸学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	講義		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業では、英国の風土や歴史を基にしながら、社会文化や風俗習慣、人々の日常生活を図版や映像を使って紹介していく。日本の文化と比較しながら、様々なトピックについて小説を読んだり映画を見ることでイギリス文学の背景を知る。

授業概要

対面授業|毎回ハンドアウトを配布し、あるテーマにそってイギリスの文化と文学を理解する知識を学ぶ。英国といえばアフタヌーン・ティーやピーター・ラビットがすぐ浮かぶが、この紅茶の伝統も、本はといえば中国や日本の茶から始まったこと、あのかわいいピーター・ラビットは英国の自然環境を守るナショナル・トラストの影の功労者となっていること、ハリー・ポッターには英国の教育制度が色濃く現れていることなどが分かるだろう。

受講上の注意

授業時に、読むべき小説や映画、参考文献などを紹介するので、様々な文学作品に触れることが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題レポート	70
授業内発表	30

教科書情報

教科書1	毎回授業時にハンドアウトを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1	授業時に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス: 英国は1つなのか? イングランド、ウェールズ、スコットランドと北アイルランドのお話		
2	イギリスのファッション(1)贅沢禁止法とファッションの流行を歴史的に考察する		
3	イギリスのファッション(2)イギリス 16 世紀にプロジェクトXを立ち上げた貴族たち		
4	教育制度とハリー・ポッター ハリーたちが勉強した寮生活とは		
5	英国王室と王の結婚 ノルマン人による征服から始まる王家の歴史について		
6	王室の歴史		
7	ナショナル・トラストとピーター・ラビット 自然を保護するために購入するという考え		
8	英国料理は不味いのか ヘンリー8 世が食べていたもの		
9	料理と小説 イギリス流食事風景		
10	イギリスのスポーツ(1)登山、ボート、テニス、魚釣り…すべてスポーツ		

11	イギリスのスポーツ(2)
12	イギリスの医療と福祉 病院の成り立ち
13	イギリス映画と文化表象 イギリス人の暮らしがわかる映画
14	イギリス小説あれこれ
15	まとめ
16	ガイダンス: 前期の復習と後期の内容
17	絵画からみる文化
18	イギリス人にとっての肖像画 肖像画は何を伝えようとしているのか
19	パブの文化 ビールの歴史
20	紅茶とイギリス文化(1) アフタヌーンティ
21	紅茶とイギリス文化(2)
22	イギリス映画
23	イングリッシュ・ガーデンの歴史(1) 庭園と文学、絵画のつながり
24	イングリッシュ・ガーデンの歴史(2)
25	ヴィクトリア朝とシャーロック・ホームズ 探偵小説の舞台
26	イギリス演劇とシェイクスピア
27	エリザベス朝の文化
28	イギリスの児童文学(1)
29	イギリスの児童文学(2)
30	まとめ

科目名	文芸学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	講義		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

この授業では、英国の風土や歴史を基にしながら、社会文化や風俗習慣、人々の日常生活を図版や映像を使って紹介していく。日本の文化と比較しながら、様々なトピックについて小説を読んだり映画を見ることでイギリス文学の背景を知る。

授業概要

対面授業|毎回ハンドアウトを配布し、あるテーマにそってイギリスの文化と文学を理解する知識を学ぶ。英国といえばアフタヌーン・ティーやピーター・ラビットがすぐ浮かぶが、この紅茶の伝統も、本はといえば中国や日本の茶から始まったこと、あのかわいいピーター・ラビットは英国の自然環境を守るナショナル・トラストの影の功労者となっていること、ハリー・ポッターには英国の教育制度が色濃く現れていることなどが分かるだろう。

受講上の注意

授業時に、読むべき小説や映画、参考文献などを紹介するので、様々な文学作品に触れることが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題レポート	70
授業内発表	30

教科書情報

教科書1	テキストは使わず、ハンドアウトを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期参照		
2	前期参照		
3	前期参照		
4	前期参照		
5	前期参照		
6	前期参照		
7	前期参照		
8	前期参照		
9	前期参照		
10	前期参照		

11	前期参照
12	前期参照
13	前期参照
14	前期参照
15	前期参照
16	ガイダンス: 前期の復習と後期の学習について
17	絵画からみる文化
18	イギリス人にとっての肖像画 肖像画は何を伝えようとしているのか
19	パブの文化 ビールの歴史
20	紅茶とイギリス文化(1) アフタヌーンティ
21	紅茶とイギリス文化(2)
22	イギリス映画
23	イングリッシュ・ガーデンの歴史(1) 庭園と文学、絵画のつながり
24	イングリッシュ・ガーデンの歴史(2)
25	ヴィクトリア朝とシャーロック・ホームズ 探偵小説の舞台
26	イギリス演劇とシェイクスピア
27	エリザベス朝の文化
28	イギリスの児童文学(1)
29	イギリスの児童文学(2)
30	後期のまとめ